



FUJITSU Software  
SIMPLIA TF-EXCOUNTER V70L12  
ユーザーズガイド

Windows

SIMPLIA-ECT-JP70(05)  
2016年02月

次 >>

## まえがき

SIMPLIA TF-EXCOUNTERは、NetCOBOLが出力するCOUNT情報を利用して、テスト量の把握やテスト漏れの防止、テスト作業の効率化を支援します。

### ヘルプを読むために

HTML 4.01をサポートするWWWブラウザをお使い下さい。  
本ユーザーズガイドでは「NetCOBOL」または「COBOL97」を総称して「COBOL」と表記しています。

### 登録商標について

- 本ユーザーズガイドで使われている登録商標および商標は、以下のとおりです。
- Microsoft、Windowsおよび Windows Serverは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
  - その他の会社名または製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

### 略記について

本ユーザーズガイドでは、各製品を次のように略記しています。

「Windows(R) 10 Home」または、 「Windows(R) 10 Pro」、 「Windows(R) 10 Enterprise」、 「Windows(R) 10 Education」	→	「Windows 10」
「Windows(R) 8.1」または、 「Windows(R) 8.1 Pro」、 「Windows(R) 8.1 Enterprise」	→	「Windows 8.1」
「Windows(R) 8」または、 「Windows(R) 8 Pro」、 「Windows(R) 8 Enterprise」	→	「Windows 8」
「Windows(R) 7 Home Premium」または、 「Windows(R) 7 Professional」、 「Windows(R) 7 Enterprise」、 「Windows(R) 7 Ultimate」	→	「Windows 7」
「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter」または、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard」、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Essentials」、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation」	→	「Windows Server 2012」または、 「Windows Server 2012 R2」

「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter」または、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard」、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Essentials」、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation」	→	「Windows Server 2012」
「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter」または、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard」、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise」、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation」	→	「Windows Server 2008 R2」
「Windows 10」または、 「Windows 8」、 「Windows 8.1」、 「Windows 7」、 「Windows Server 2012」、 「Windows Server 2008 R2」	→	「Windows」

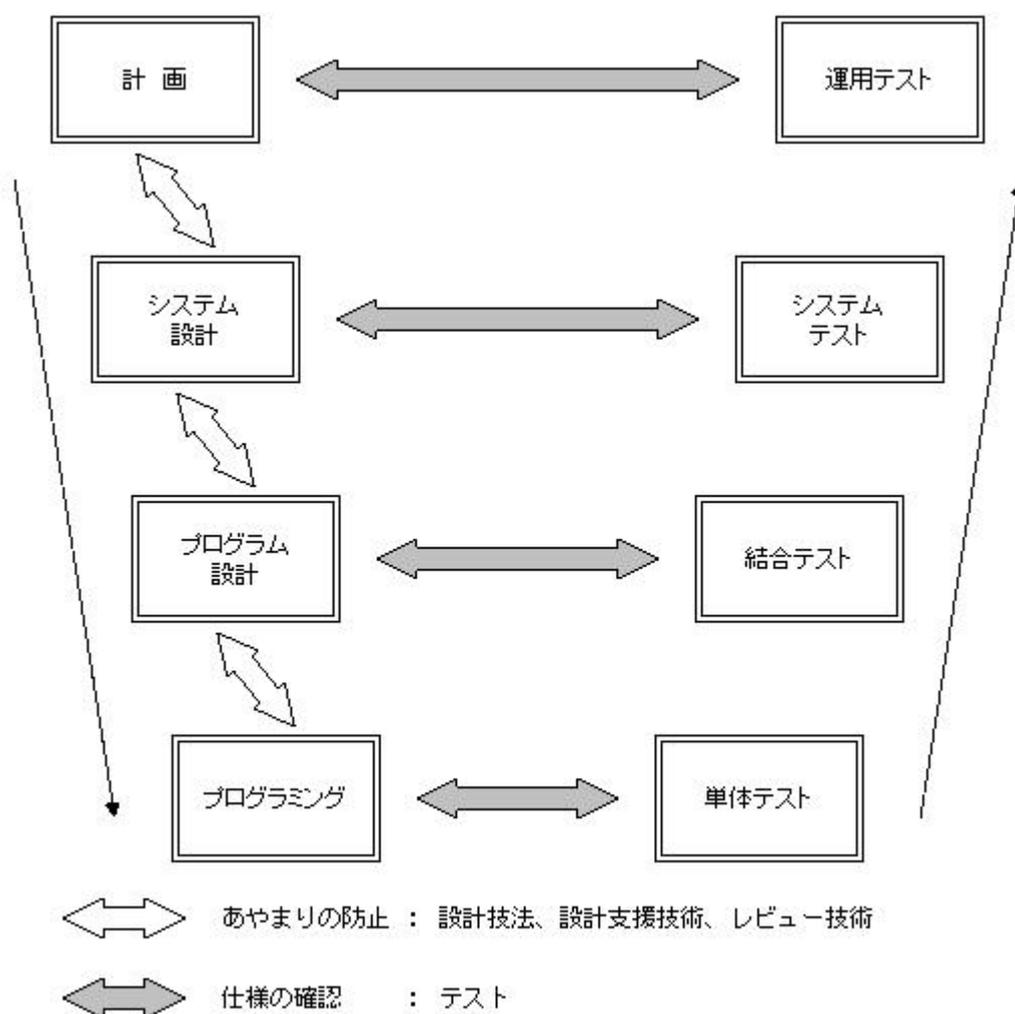
[◀ 前](#)
[次 ▶](#)
[先頭行へ↑](#)

## 第1章 背景と目的

### 1) テストの必要性

ソフトウェアの開発は、設計からプログラミングまでの段階とテスト段階からなります。高い品質のソフトウェアを開発するには、設計からプログラミングまでの段階で誤りを防止し、テストの段階で仕様を漏れなく確認する必要があります。

前者を行うためには、様々な設計技法や設計支援技術やレビュー技術が工夫され、適用されてきていますが、それらだけで品質を保証することはできません。最終的な品質は、すべての仕様をテストする以外に確認する方法がないのが現状です。



### 2) テスト漏れの弊害

“テスト漏れがある”ということは“品質が確認されていない”ということであり、“品質が悪い”と同一ではありません。しかし、設計からプログラミングまでの段階で品質を保証しない限り“良い品質”とは言えません。“テスト漏れがある”場合、どれくらい品質が悪いかは、設計からプログラミング段階での誤りと、テスト段階でのテスト漏れがどれくらい多いかに大きく左右されます。

### 3) テストの評価尺度の必要性

テスト漏れがあるか否かはどうすれば知ることができるでしょうか。

テストを十分に行ったかどうかの評価がテスト担当者の主観に委ねられている場合には、その担当者の経験・スキル・意識等に大きく左右されるため、テスト漏れが起こる可能性が高くなります。

そこで、テストの量を客観的に評価するための尺度が必要となります。テスト量の尺度としては、テスト項目数(テストで確認した機能の数)や実行網羅率(実行された部分の全体に占める割合)等があります。

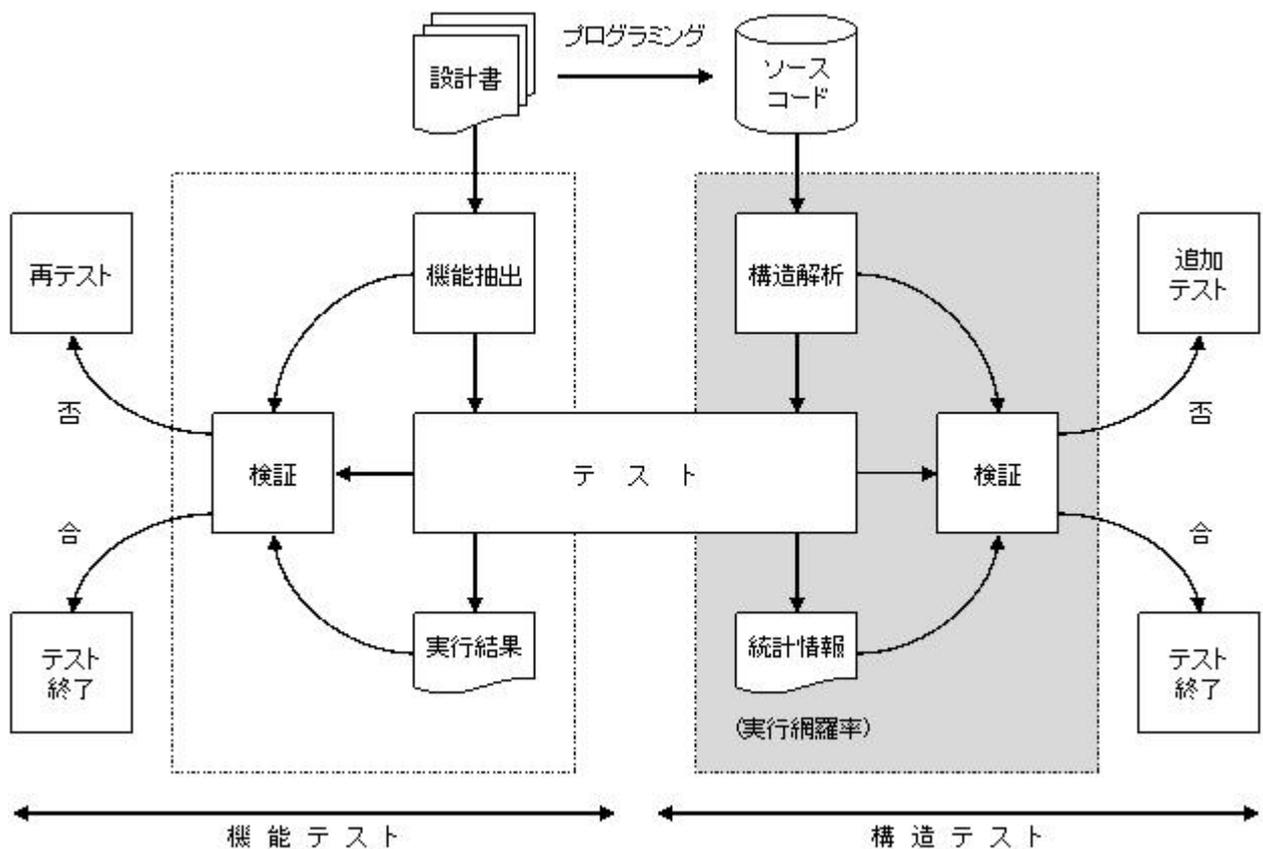
### 4) 命令実行網羅率について

テストには機能面でもとらえたテスト(機能テスト)と、構造面からとらえたテスト(構造テスト)とがあります。

テスト項目数は、機能テストの評価尺度として有効であり、命令実行網羅率は、構造テストの評価尺度として有効です。

構造テストは、プログラム単体テストなど、テストの前半の工程で特に有効ですが、構造面からの評価は人手では難しく、ツールによる支援が必要となります。

命令実行網羅率には、全命令、全分岐、全パス等、何を計測の単位にするかで様々な種類がありますが、本ツールでは、全命令に占める命令実行の割合を計測し、数値による客観的なソフトウェアの品質情報を提供します。



第2章 概要説明

---

◀ 前 次 ▶

## 第2章 概要説明

TF-EXCOUNTERの概要について説明します。

---

◀ 前 次 ▶ 先頭行へ ↕

第3章 導入手順

---

◀ 前

次 ▶

## 第3章 導入手順

TF-EXCOUNTERの導入手順について説明します。

---

◀ 前

次 ▶

先頭行へ ▲

第4章 機能説明

---

◀ 前

次 ▶

## 第4章 機能説明

TF-EXCOUNTERの機能、帳票の活用方法について説明します。

---

◀ 前

次 ▶

先頭行へ ⚡

第5章 操作説明

---

◀ 前 次 ▶

## 第5章 操作説明

TF-EXCOUNTERの操作方法を説明します。

---

◀ 前 次 ▶ 先頭行へ ↕

## 第6章 画面説明

TF-EXCOUNTERの各画面について説明します。

---

第7章 出力ファイル説明

---

◀ 前

次 ▶

## 第7章 出力ファイル説明

TF-EXCOUNTERで出力されるファイルについて説明します。

---

◀ 前

次 ▶

先頭行へ ⚡

第8章 制限/注意事項

---

◀ 前 次 ▶

## 第8章 制限/注意事項

制限/注意事項について説明します。

---

◀ 前 次 ▶ 先頭行へ ▲

第9章 メッセージ

---

◀ 前 次 ▶

## 第9章 メッセージ

TF-EXCOUNTERのメッセージについて説明します。

---

◀ 前 次 ▶ 先頭行へ↑

## 9.1 メッセージ一覧

---

10000 正しいCOUNTLOGファイル格納フォルダを指定して下さい。

【意味】

COUNTLOGファイル格納フォルダに誤りがあります。

【対処】

再度COUNTLOG格納フォルダを指定してください。

---

10001 正しいCOUNT情報ファイルを指定して下さい。

【意味】

指定されたのはCOUNT情報ファイルではありません。

【対処】

再度COUNT情報ファイルを指定してください。

---

10002 テストケース名を指定して下さい。

【意味】

テストケース名が指定されていません。

【対処】

テストケース有りの場合は、テストケース名の入力が必要です。

---

10003 COBOLソースファイル読み込み中にエラーが発生しました。

COBOLソースファイル名:(%1)

詳細:(%2)

【意味】

COBOLソースファイル読み込み中にエラーが発生しました。

%1:COBOLソースファイルパス名

%2:[詳細](#)

【対処】

COBOLソースファイルを確認し再度指定してください。

---

10004 COBOLソースファイル読み込み中にメモリ不足が発生しました。

【意味】

COBOLソースファイル読み込み中にメモリ不足が発生しました。

【対処】

他のアプリケーションを終了し再度処理を行ってください。

---

10006 COBOLソースファイル中にPROCEDURE DIVISIONが見つかりません。

COBOLソースファイル名:(%1)

【意味】

COBOLソースファイル中にPROCEDURE DIVISIONが見つかりませんでした。

%1:COBOLソースファイルパス名

**【対処】**

COBOLソースファイルにはPROCEDURE DIVISIONが存在しなければなりません。

---

10007 COBOLソースファイル中にPROGRAM-IDが見つかりません。

COBOLソースファイル名:(%1)

**【意味】**

COBOLソースファイル中にPROGRAM-IDが見つかりませんでした。

%1:COBOLソースファイルパス名

**【対処】**

COBOLソースファイルにはPROGRAM-IDが存在しなければなりません。

---

10008 COBOLソースファイルのオープン時にエラーが発生しました。

COBOLソースファイル名:(%1)

詳細:(%2)

**【意味】**

COBOLソースファイルオープン時にエラーが発生しました。

%1:COBOLソースファイルパス名

%2:[詳細](#)

**【対処】**

COBOLソースファイルを確認し再度指定してください。

---

10009 テストケースのマージ処理中にメモリ不足が発生しました。

**【意味】**

テストケースのマージ処理中にメモリ不足が発生しました。

**【対処】**

他のアプリケーションを終了し再度処理を行ってください。

---

10010 行情報が一つも見付かりません。

**【意味】**

COUNTLOGファイル中に行情報がありませんでした。

**【対処】**

COUNTLOGファイルが壊れている可能性があります。再度蓄積処理でCOUNTLOGファイルを作成してください。

---

10011 内部プログラム情報がありません。

**【意味】**

COUNTLOGファイル中に内部プログラム情報がありませんでした。

**【対処】**

COUNTLOGファイルが壊れている可能性があります。再度蓄積処理でCOUNTLOGファイルを作成してください。

---

10012 COUNTLOGファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

COUNTLOGファイル名:(%1)

詳細:(%2)

**【意味】**

COUNTLOGファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

%1:COUNTLOGファイル名

%2:[詳細](#)

**【対処】**

COUNTLOGファイルを確認し再度指定してください。

---

**10013 COUNTLOGファイルの読み込み中にメモリ不足が発生しました。**

**【意味】**

COUNTLOGファイル読み込み中にメモリ不足が発生しました。

**【対処】**

他のアプリケーションを終了し再度処理を行ってください。

---

**10014 COUNTLOGファイルの読み込み中にエラーが発生しました。**

COUNTLOGファイル名:(%1)

詳細:(%2)

**【意味】**

COUNTLOGファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

%1:COUNTLOGファイル名

%2:[詳細](#)

**【対処】**

COUNTLOGファイルを確認し再度指定してください。

---

**10015 COUNTLOGファイルのオープン時にエラーが発生しました。**

COUNTLOGファイル名:(%1)

詳細:(%2)

**【意味】**

COUNTLOGファイルオープン時にエラーが発生しました。

%1:COUNTLOGファイル名

%2:[詳細](#)

**【対処】**

COUNTLOGファイルを確認し再度指定してください。

---

**10016 COUNTLOGファイルの書き込み中にエラーが発生しました。**

COUNTLOGファイル名:(%1)

詳細:(%2)

**【意味】**

COUNTLOGファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

%1:COUNTLOGファイル名

%2:[詳細](#)

**【対処】**

COUNTLOGファイルを確認し再度指定してください。

---

**10017 COUNTLOGファイルの書き込み中にメモリ不足が発生しました。**

**【意味】**

COUNTLOGファイル書き込み中にメモリ不足が発生しました。

**【対処】**

他のアプリケーションを終了し再度処理を行ってください。

---

10018 COUNTLOGファイルの書き込み中にエラーが発生しました。  
COUNTLOGファイル名:(%1)  
詳細:(%2)

**【意味】**

COUNTLOGファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

%1:COUNTLOGファイル名

%2:[詳細](#)

**【対処】**

COUNTLOGファイルを確認し再度指定してください。

---

10019 CSVファイルの書き込み中にエラーが発生しました。  
CSVファイル名:(%1)  
詳細:(%2)

**【意味】**

CSVファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

%1:CSVファイル名

%2:[詳細](#)

**【対処】**

CSVファイルを確認し再度指定してください。

---

10020 CSVファイルのオープン時にエラーが発生しました。  
CSVファイル名:(%1)  
詳細:(%2)

**【意味】**

CSVファイルオープン時にエラーが発生しました。

%1:CSVファイル名

%2:[詳細](#)

**【対処】**

CSVファイルを確認し再度指定してください。

---

10021 除外文番号指示ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。  
除外文番号指示ファイル名:(%1)  
詳細:(%2)

**【意味】**

除外文番号指示ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

%1:除外文番号指示ファイル名

%2:[詳細](#)

**【対処】**

除外文番号指示ファイルを確認し再度指定してください。

---

10023 除外文番号指示ファイルのオープン時にエラーが発生しました。  
除外文番号指示ファイル名:(%1)  
詳細:(%2)

**【意味】**

除外文番号指示ファイルオープン時にエラーが発生しました。

%1:除外文番号指示ファイル名

%2:[詳細](#)

【対処】

除外文番号指示ファイルを確認し再度指定してください。

---

10024 CSVファイルの作成に失敗しました。

【意味】

CSVファイルの作成に失敗しました。

【対処】

詳細な情報は直前のメッセージを参照してください。

---

10025 除外文番号指示ファイルの作成に失敗しました。

【意味】

除外文番号指示ファイルの作成に失敗しました。

【対処】

詳細な情報は直前のメッセージを参照してください。

---

10026 未実行行が無いために除外文番号指示ファイルの作成は行いません。

【意味】

未実行行がありません。

【対処】

未実行行が存在する場合に除外文番号指示ファイルの作成を行ってください。

---

10027 プログラム数が前回の情報と一致しません。

【意味】

プログラム数が前回の情報と一致しません。

【対処】

プログラムを変更した場合は、蓄積処理でCOUNTLOGファイルを新たに作成してください。

---

10028 プログラム名が前回の情報と一致しません。

【意味】

プログラム名が前回の情報と一致しません。

【対処】

プログラムを変更した場合は、蓄積処理でCOUNTLOGファイルを新たに作成してください。

---

10029 プログラムの行情報が前回の情報と一致しません。

【意味】

プログラムの行情報が前回の情報と一致しません。

【対処】

プログラムを変更した場合は、蓄積処理でCOUNTLOGファイルを新たに作成してください。

---

10030 PROCEDURE DIVISIONの行番号が前回の情報と一致しません。

【意味】

PROCEDURE DIVISIONの行番号が前回の情報と一致しません。

【対処】

プログラムを変更した場合は、蓄積処理でCOUNTLOGファイルを新たに作成してください。

---

10031 COUNTLOGファイルが選択されていません。

【意味】

COUNTLOGファイルが選択されていません。

【対処】

COUNTLOGファイルを選択後、再度処理を行ってください。

---

10032 テストケースのマージ処理中にメモリ不足が発生しました。

【意味】

テストケースのマージ処理中にメモリ不足が発生しました。

【対処】

他のアプリケーションを終了し再度処理を行ってください。

---

10033 テストケースが見つかりません。

【意味】

COUNTLOGファイル中にテストケース情報がありませんでした。

【対処】

COUNTLOGファイルが壊れている可能性があります。  
再度蓄積処理でCOUNTLOGファイルを作成してください。

---

10034 COUNTLOGファイルのプログラム数とCOBOLのプログラム数に相違があります。

COUNTLOGファイルのプログラム数:(%1)

COBOLプログラム数:(%2)

【意味】

COUNTLOGファイルの内部プログラム数と、COBOLの内部プログラム数で相違があります。

対象のプログラムでは無い可能性があります。

%1:COUNTLOGファイルの内部プログラム数

%2:COBOL内部プログラム数

【対処】

正しいソースファイルを指定してください。

プログラムを変更した場合は、蓄積処理でCOUNTLOGファイルを新たに作成してください。

---

10035 COUNTLOGファイルのプログラムIDと、COBOLのプログラムIDに相違があります。

COUNTLOGファイル プログラムID:(%1)

COBOL プログラムID:(%2)

【意味】

COUNTLOGファイルのプログラムIDと、COBOLのプログラムIDで相違があります。

対象のプログラムでは無い可能性があります。

%1:COUNTLOGファイル プログラムID

%2:COBOL プログラムID

【対処】

正しいソースファイルを指定してください。

プログラムを変更した場合は、蓄積処理でCOUNTLOGファイルを新たに作成してください。

---

10036 COUNTLOGファイルのPROCEDURE DIVISIONの行番号と、COBOLのPROCEDURE DIVISIONの行番号に相違があります。

COUNTLOGファイル:(%1)

COBOL:(%2)

【意味】

COUNTLOGファイルのPROCEDURE DIVISIONの行番号と、COBOLのPROCEDURE DIVISIONの行番号で相違があります。

%1:COUNTLOGファイル名 行番号

%2:COBOL 行番号

【対処】

対象のプログラムでは無い可能性があります。正しいソースファイルを指定してください。

プログラムを変更した場合は、蓄積処理でCOUNTLOGファイルを新たに作成してください。もしくは、コンパイル時に指定したオプション(NUMBER/NONUMBER)が、COUNTLOGファイル蓄積時の蓄積モードの指定と異なっている可能性があります。

コンパイルオプションまたは蓄積モードを確認してください。

---

10037 CSVファイルが指定されていません。

【意味】

CSVファイルが指定されていません。

【対処】

CSVファイルを指定してください。

---

10038 CSVファイル表示用プログラムが指定されていません。

【意味】

CSVファイル表示用プログラムが指定されていないため、[帳票出力](#)で作成したCSVファイルが表示できません。

【対処】

[6.10.1 環境設定画面](#)でCSVファイル表示用プログラムを指定してください。

---

10039 除外文番号指示ファイルが指定されていません。

【意味】

除外文番号指示ファイルが指定されていないため、開くことができません。

【対処】

除外文番号指示ファイルを作成してから処理を行ってください。

---

10040 除外文番号指示ファイル編集用プログラムが指定されていません。

【意味】

除外文番号指示ファイル編集用プログラムが指定されていません。

そのため、[除外文番号指示ファイル作成](#)で作成した除外文番号指示ファイルが表示で

きません。

【対処】

[環境設定](#)で除外文番号指示ファイル編集用プログラムを指定してください。

---

10041 %sの起動に失敗しました。

【意味】

プログラムの起動に失敗しました。

%s:プログラム名

【対処】

[環境設定](#)で指定したCSVファイル表示用プログラムまたは除外文番号指示ファイル編集用プログラムを確認してください。

---

10042 ヘルプの起動に失敗しました。( %1)

【意味】

ヘルプの起動に失敗しました。

%1:ヘルプファイルパス名

【対処】

インストールディレクトリ配下にHELPフォルダが存在するかを確認してください。

---

10043 COUNT情報ファイルの内容に誤りがあります。確認を行ってください。

【意味】

COUNT情報ファイルの内容に誤りがあります。

【対処】

COUNT情報ファイルを確認してください。

---

10044 COUNT情報ファイルではありません。

【意味】

COUNT情報ファイルではありません。

【対処】

COUNT情報ファイルを確認し再度指定してください。

---

10045 COUNT情報ファイルの日付が正しくありません。

内容:( %1)

【意味】

COUNT情報ファイルの日付が正しくありません。

%1:日付

【対処】

COUNT情報ファイルを確認し再度指定してください。

---

10046 COUNT情報ファイルに有効な行情報が見つかりません。

【意味】

COUNT情報ファイルに有効な行情報が見つかりません。COUNT情報ファイルにプログラムに関する行情報が存在しません。

【対処】

COUNT情報ファイルを確認し再度指定してください。

---

10047 COUNT情報ファイルに有効なプログラム情報がみつかりません。

【意味】

COUNT情報ファイルに有効なプログラム情報がみつかりません。

COUNT情報ファイルにプログラムに関する情報が存在しません。

【対処】

COUNT情報ファイルを確認し再度指定してください。

---

10048 COUNT情報ファイルの時間が正しくありません。

内容:(%1)

【意味】

COUNT情報ファイルの時間が正しくありません。

%1:時間

【対処】

COUNT情報ファイルを確認し再度指定してください。

---

10049 COUNT情報ファイルのオープン時にエラーが発生しました。

COUNT情報ファイル名:(%1)

詳細:(%2)

【意味】

COUNT情報ファイルオープン時にエラーが発生しました。

%1:COUNT情報ファイル名

%2:詳細

【対処】

COUNT情報ファイルを確認し再度指定してください。

---

10050 COUNT情報ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

COUNT情報ファイル名:(%1)

詳細:(%2)

【意味】

COUNT情報ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

%1:COUNT情報ファイル名

%2:詳細

【対処】

COUNT情報ファイルを確認し再度指定してください。

---

10051 COUNT情報ファイルの読み込み中にメモリ不足が発生しました。

【意味】

COUNT情報ファイルの読み込み中にメモリ不足が発生しました。

【対処】

他のアプリケーションを終了し再度処理を行ってください。

---

10052 COUNT情報ファイルの解析中にエラーが発生しました。

【意味】

COUNT情報ファイルの解析中にエラーが発生しました。

【対処】

COUNT情報ファイルを確認してください。

---

10053 除外文番号指示ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

除外文番号指示ファイル名:(%1)

詳細:(%2)

【意味】

除外文番号指示ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

%1:除外文番号指示ファイル名

%2:詳細

【対処】

除外文番号指示ファイルを確認し再度指定してください。

---

10059 定義プログラムを選択してください。

【意味】

定義プログラムが選択されていません。

【対処】

蓄積する場合は、定義プログラムを一つ以上選択してください。

---

10062 指定されたものは除外文番号指示ファイルではありません。

【意味】

指定されたファイルは除外文番号指示ファイルではありません。

【対処】

除外文番号指示ファイルを確認し再度指定してください。

---

10064 COUNTLOGファイルのプログラムIDと、除外文番号指示ファイルのプログラムIDに相違があります。

COUNTLOGファイル プログラムID:(%1)

除外文番号指示ファイル プログラムID:(%2)

正しい除外文番号指示ファイルを指定してください。

【意味】

COUNTLOGファイルのプログラムIDと、除外文番号指示ファイルのプログラムIDに相違があります。

%1:COUNTLOGファイルプログラムID

%2:除外文番号指示ファイルプログラムID

【対処】

正しい除外文番号指示ファイルを指定してください。

---

10065 正しい作業用フォルダを指定して下さい。

【意味】

指定した作業用フォルダ名に、使えない文字が含まれています。

【対処】

作業用フォルダ名に下記の文字が含まれていないことを確認し再度指定してください。

¥/:\*?"<>|

---

10066 COBOLソースファイル読み込み中にエラーが発生しました。

COBOLソースファイル名:(%1)

【意味】

COBOLソースファイル読み込み中にエラーが発生しました。

%1:COBOLソースファイル名

**【対処】**

指定されたCOBOLソースファイルを確認し再度指定してください。

---

10067 COUNTLOGファイルを指定してください。

**【意味】**

COUNTLOGファイルの指定が必須です。

**【対処】**

COUNTLOGファイルを指定してください。

---

10068 正しいCOUNTLOGファイルを指定してください。

**【意味】**

COUNTLOGファイルの指定に誤りがあります。

**【対処】**

正しいCOUNTLOGファイルを確認し再度指定してください。

---

10069 COBOLソースファイル読み込み中にエラーが発生しました。

詳細:(%1)

**【意味】**

COBOLソースファイル読み込み中にエラーが発生しました。

%1:[詳細](#)

**【対処】**

COBOLソースファイルを確認し再度指定してください。

---

10070 単一出力オペランドと一括出力オペランドの同時指定はできません。

**【意味】**

単一出力オペランド(/IF)と一括出力オペランド(/ID、/SD、/OD)を同時に指定できません。

**【対処】**

出力形式を確認し、オペランドを再度指定してください。

---

10071 COBOLソースファイル中にPROGRAM-IDが見つかりません。

**【意味】**

COBOLソースファイル中にPROGRAM-IDが見つかりません。

**【対処】**

COBOLソースファイル中にPROGRAM-IDが含まれているかを確認し再度指定してください。

---

10072 COBOLソースファイルのオープン時にエラーが発生しました。

詳細:(%1)

**【意味】**

COBOLソースファイルのオープン時にエラーが発生しました。

%1:[詳細](#)

**【対処】**

COBOLソースファイルを確認し再度指定してください。

---

10073 COUNTLOGファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

詳細:(%1)

**【意味】**

COUNTLOGファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

%1:[詳細](#)

**【対処】**

COUNTLOGファイルを確認し再度指定してください。

---

**10074 COUNTLOGファイルの読み込み中にエラーが発生しました。**

[詳細](#):(%1)

**【意味】**

COUNTLOGファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

%1:[詳細](#)

**【対処】**

COUNTLOGファイルを確認し再度指定してください。

---

**10075 COUNTLOGファイルのオープン時にエラーが発生しました。**

[詳細](#):(%1)

**【意味】**

COUNTLOGファイルのオープン時にエラーが発生しました。

%1:[詳細](#)

**【対処】**

COUNTLOGファイルを確認し再度指定してください。

---

**10076 除外文番号指示ファイルが見つかりません。**

**【意味】**

除外文番号指示ファイルの指定に誤りがあります。

**【対処】**

除外文番号指示ファイルを確認し再度処理を行ってください。

---

**10077 正しい除外文番号指示ファイル格納フォルダを指定してください。**

**【意味】**

除外文番号指示ファイル格納フォルダの指定に誤りがあります。

**【対処】**

除外文番号指示ファイル格納フォルダを確認し再度処理を行ってください。

---

**10078 COUNTLOGファイルから除外文番号指示ファイル情報が見つかりません。**

**【意味】**

指定されたCOUNTLOGファイルに除外文番号指示ファイル情報がありません。

**【対処】**

COUNTLOGファイルの内容を確認し再度指定してください。

或いはコマンドラインのオプション/EX後に除外文番号指示ファイルのフルパスを指定してください。

---

**10079 COUNTLOGファイルに記述している除外文番号指示ファイルが見つかりません。**

**【意味】**

COUNTLOGファイルに記述している除外文番号指示ファイルが見つかりません。

**【対処】**

COUNTLOGファイルに、記述されている除外文番号指示ファイルが存在するかを確認してください。

---

**10080 除外文番号指示ファイル読み込み中にメモリ不足が発生しました。**

**【意味】**

除外文番号指示ファイル読み込み中にメモリ不足が発生しました。

**【対処】**

他のアプリケーションを終了し再度処理を行ってください。

---

**10081 作業用フォルダが見つかりません。**

**【意味】**

作業用フォルダが見つかりませんでした。

**【対処】**

作業用フォルダが存在するかを確認し再度処理を行ってください。

---

**10082 正しいCOBOLソースファイルの文字コードを指定してください。**

**【意味】**

COBOLソースファイルの文字コードの指定に誤りがあります。

**【対処】**

/IS と/IUを同時に指定できません。

COBOLソースファイルの文字コードを確認し再度指定してください。

---

**10083 正しい出力CSVファイルの文字コードを指定してください。**

**【意味】**

CSVファイルの文字コードの指定に誤りがあります。

**【対処】**

/OS と/OUを同時に指定できません。

CSVファイルの文字コードを確認し再度指定してください。

---

**10084 正しい出力帳票種類を指定してください。**

**【意味】**

出力帳票種類の指定に誤りがあります。

**【対処】**

/MR、/MK、および/IIは、同時に指定できません。

正しい出力帳票種類を指定してください。

---

**10085 単一出力オペランドと一括出力オペランドの同時指定はできません。**

**【意味】**

単一出力オペランド(/IF、/SF、/OF)と一括出力オペランド(/ID)を同時に指定できません。

**【対処】**

出力形式を確認し、オペランドを再度指定してください。

---

**10086 COBOLソースが見つかりません。**

**【意味】**

COBOLソースが見つかりませんでした。

【対処】

COBOLソースファイルを指定し再度処理を行ってください。

---

10087 出力CSVファイル名の作成に失敗しました。

【意味】

出力CSVファイル名の作成に失敗しました。

COUNTLOGファイルに記述しているCSVファイルのフルパスに誤りがあります。

【対処】

COUNTLOGファイルの内容を確認し、或いはコマンドラインで出力CSVファイルのフルパスを指定してください。

---

10088 出力帳票種類を指定してください。

【意味】

出力帳票種類(/MR|/MK|/TI)の指定が必須です。

【対処】

出力帳票種類を指定してください。

---

10089 %1は無効なオプションです。

【意味】

指定できないオプションを指定しました。

%1: オプション名

【対処】

指定できるオプションについてユーザーズガイドの[5.7 コマンドライン](#)を参照してください。

---

10090 テストケース名(%1)の長さが255バイトを超えています。

【意味】

テストケース名の長さが255バイトを超えました。

%1: テストケース名

【対処】

テストケース名を確認し再度指定してください。

---

10091 同じプログラム名のCOBOLソースが存在しています。

【意味】

一括出力する場合、指定されたCOBOLソース格納フォルダに同じプログラム名のCOBOLソースが存在しています。

【対処】

COBOLソースを確認し再度処理を行ってください。

---

10092 COBOLソースファイルの解析中にエラーが発生しました。

【意味】

COBOLソースファイルの解析中にエラーが発生しました。

%1: COBOLソースファイル名

【対処】

COBOLソースファイルを確認してください。

---

10093 正しい出力CSVファイル格納フォルダを指定してください。

【意味】

出力CSVファイル格納フォルダに誤りがあります。

【対処】

再度正しい出力CSVファイル格納フォルダを指定してください。

---

10094 正しいCOBOLソースファイル格納フォルダを指定してください。

【意味】

COBOLソースファイル格納フォルダに誤りがあります。

【対処】

再度正しいCOBOLソースファイル格納フォルダを指定してください。

---

10095 出力ログファイルの作成時にエラーが発生しました。

ファイル:(%1)

【意味】

出力ログファイルの作成時にエラーが発生しました。

%1:ファイル

【対処】

出力ログファイルのパスを確認してください。

---

10096 COUNTLOGファイル内に指定されたテストケース名が存在しません。

【意味】

命令実行情報個別出力を指定する場合、指定されたテストケース名とCOUNTLOGファイルに記述しているテストケース名が不一致です。

【対処】

COUNTLOGファイルを確認し、テストケース名を再度指定してください。

---

10097 COUNTLOGファイル内にテストケースが存在しません。

【意味】

命令実行情報個別出力を指定しましたが、指定されたCOUNTLOGファイルにテストケース名が存在しません。

【対処】

COUNTLOGファイルを確認し再度処理を行ってください。

---

10098 COUNTLOGファイル格納フォルダを指定してください。

【意味】

COUNTLOGファイル格納フォルダの指定が必須です。

【対処】

COUNTLOGファイル格納フォルダを指定してください。

---

10099 CSVファイル出力フォルダの作成時にエラーが発生しました。

フォルダ:(%1)

【意味】

CSVファイル出力フォルダの作成時にエラーが発生しました。

%1:フォルダパス

【対処】

CSVファイル出力フォルダを確認してください。

---

10100 COUNTLOGファイル名(%1)の長さが255バイトを超えています。

【意味】

COUNTLOGファイル名の長さが255バイトを超えました。

%1:COUNTLOGファイル名

【対処】

COUNTLOGファイル格納フォルダを確認し再度指定してください。

---

10101 COUNT情報ファイル名(%1)の長さが255バイトを超えています。

【意味】

COUNT情報ファイル名の長さが255バイトを超えました。

%1:COUNT情報ファイル名

【対処】

COUNT情報ファイル名を確認し再度指定してください。

---

10102 COBOLソースファイル名(%1)の長さが255バイトを超えています。

【意味】

COBOLソースファイル名の長さが255バイトを超えました。

%1:COBOLソースファイル名

【対処】

COBOLソースファイル名を確認し再度指定してください。

---

10104 除外文番号指示ファイル名(%1)の長さが255バイトを超えています。

【意味】

除外文番号指示ファイル名の長さが255バイトを超えました。

%1:除外文番号指示ファイル名

【対処】

除外文番号指示ファイル名を確認し再度指定してください。

---

10105 CSVファイル名(%1)の長さが255バイトを超えています。

【意味】

CSVファイル名の長さが255バイトを超えました。

%1:CSVファイル名

【対処】

CSVファイル名を確認し再度指定してください。

---

10106 フォルダ名(%1)の長さが255バイトを超えています。

【意味】

フォルダ名の長さが255バイトを超えました。

%1:フォルダ名

【対処】

フォルダ名を確認し再度指定してください。

---

10107 ファイル名(%1)の長さが255バイトを超えています。

【意味】

ファイル名の長さが255バイトを超えました。

%1:ファイル名

**【対処】**

ファイル名を確認し再度指定してください。

---

10108 テストケース名を255バイト以内で入力して下さい。

プログラム名:(%1)

**【意味】**

テストケース名の長さが255バイトを超えました。

%1:プログラム名

**【対処】**

テストケース名を確認し再度指定してください。

---

10109 出力ログファイルのオープン時にエラーが発生しました。

ファイル:(%1)

詳細:(%2)

**【意味】**

出力ログファイルのオープン時にエラーが発生しました。

%1:ログファイルパス名

%2:[詳細](#)

**【対処】**

出力ログファイルを確認し再度指定してください。

---

10110 出力ログファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

ファイル:(%1)

詳細:(%2)

**【意味】**

出力ログファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

%1:ログファイルパス名

%2:[詳細](#)

**【対処】**

出力ログファイルを確認し再度指定してください。

---

10111 COUNTLOGファイル格納フォルダが指定されていません。

**【意味】**

COUNTLOGファイル格納フォルダの指定が必須です。

**【対処】**

COUNTLOGファイル格納フォルダを指定してください。

---

10112 COUNT情報ファイルが指定されていません。

**【意味】**

COUNT情報ファイルの指定が必須です。

**【対処】**

COUNT情報ファイルを指定してください。

---

10113 COUNT情報ファイル(%1)が存在しません。

**【意味】**

指定されたCOUNT情報ファイルが存在しません。

%1:COUNT情報ファイルパス名

**【対処】**

COUNT情報ファイルのパスを確認し再度指定してください。

---

10114 COUNTLOGファイル内にテストケース名が存在しません。

**【意味】**

既存のCOUNTLOGファイル内にテストケース名が存在していないため、テストケース名の指定はできません。

**【対処】**

指定されたテストケース名を削除し再度処理を行ってください。

---

10115 COUNTLOGファイル内にテストケース名が存在します。

**【意味】**

既存のCOUNTLOGファイル内にテストケース名が存在しているため、テストケース名の指定は必須です。

**【対処】**

既存のCOUNTLOGファイルを確認し、再度指定してください。

---

10300 カレントフォルダ(%1)が見つかりません。

**【意味】**

カレントフォルダが見つかりませんでした。

%1:カレントフォルダ名

**【対処】**

[環境設定](#)でカレントフォルダを確認し再度指定してください。

---

10301 作業用フォルダ(%1)が見つかりません。

**【意味】**

作業用フォルダが見つかりませんでした。

%1:作業用フォルダ名

**【対処】**

[環境設定](#)で作業用フォルダを確認し再度指定してください。

---

10302 CSVファイル表示プログラム(%1)が見つかりません。

**【意味】**

CSVファイル表示プログラムが見つかりませんでした。

%1:CSVファイル表示プログラム名

**【対処】**

[環境設定](#)でCSVファイル表示プログラムを確認し再度指定してください。

---

10303 除外文番号指示ファイル編集プログラム(%1)が見つかりません。

**【意味】**

除外文番号指示ファイル編集プログラムが見つかりませんでした。

%1:除外文番号指示ファイル編集プログラム名

**【対処】**

環境設定で除外文番号指示ファイル編集プログラムを確認し再度指定してください。

---

10400 フォルダに(%1)は指定できません。

【意味】

無効なフォルダ名が指定されました。

%1:フォルダ名

【対処】

再度フォルダを指定してください。

---

10401 ファイルに(%1)は指定できません。

【意味】

無効なファイル名が指定されました。

%1:ファイル名

【対処】

再度ファイルを指定してください。

---

10402 フォルダ(%1)が見つかりません。

【意味】

指定されたフォルダが見つかりません。

%1:フォルダ名

【対処】

再度フォルダを指定してください。

---

10403 ファイル(%1)が見つかりません。

【意味】

指定されたファイルが見つかりません。

%1:ファイル名

【対処】

再度ファイルを指定してください。

---

10404 ドライブ直下(%1)は指定できません。

【意味】

ファイルの出力先にドライブ直下は指定できません。

%1:フォルダ名

【対処】

フォルダを指定してください。

---

10405 COBOLソースファイル(%1)が見つかりません。COUNTLOGファイルの表示後のメイン画面で正しいCOBOLソースファイルを指定してください。

【意味】

COUNTLOGファイルに指定したCOBOLソースファイルが見つかりません。

%1:ファイル名

【対処】

COUNTLOGファイルに指定したCOBOLソースファイルが存在するかを確認し、メイン画面で再度指定してください。

---

10406 除外文番号指示ファイル(%1)が見つかりません。COUNTLOGファイルの表示後のメイン画面で正しい除外文番号指示ファイルを指定してください。

【意味】

COUNTLOGファイルに指定した除外文番号指示ファイルが見つかりません。

%1:ファイル名

【対処】

COUNTLOGファイルに指定した除外文番号指示ファイルが存在するかを確認し、メイン画面で再度指定してください。

---

10500 指定されたCOUNTLOGファイルの形式はサポート対象外です。

【意味】

サポート対象外のCOUNTLOGファイルが指定されました。

【対処】

サポート対象内のCOUNTLOGファイルを指定してください。

---

12008 正しいソースライブラリ名を指定して下さい。

【意味】

ソースライブラリ名の指定に誤りがあります。

【対処】

正しいソースライブラリ名を指定してください。

---

12009 正しい除外文番号指示ファイル名を指定して下さい。

【意味】

除外文番号指示ファイル名の指定に誤りがあります。

【対処】

正しい除外文番号指示ファイル名を指定してください。

---

12011 正しい出力CSVファイル名を指定して下さい。

【意味】

出力CSVファイル名の指定に誤りがあります。

【対処】

正しい出力CSVファイル名を指定してください。

---

12012 正しいCOBOLソースファイル名を指定して下さい。

【意味】

COBOLソースファイル名の指定に誤りがあります。

【対処】

正しいCOBOLソースファイル名を指定してください。

---

13000 内部処理中にエラーが発生しました。

詳細:%1

【意味】

内部処理でエラーが発生しました。

%1:[詳細](#)

【対処】

指定したファイルやフォルダについて再度確認してください。

---

13001 作業用フォルダ(%1)でエラーが発生しました。

詳細:%2

【意味】

作業用フォルダでエラーが発生しました。

%1:フォルダ名

%2:詳細

【対処】

指定した作業用フォルダについて再度確認してください。

---

13002 エラーが発生しました。正しいファイルを選択して下さい。

【意味】

COBOLソースファイルの指定に誤りがあります。

【対処】

正しいCOBOLソースファイルを指定してください。

---

20000 行指定エラー

指定された行番号が見つかりませんでした。

【意味】

行指定エラー

指定された行番号が見つかりませんでした。

【対処】

正しい行番号を指定して下さい。

メッセージ詳細

ID	メッセージ	意味と対処方法
11000	エラー無し	端末の動作が不安定になる可能性があります。 アプリケーションを終了し再度処理を行ってください。
11001	未定義エラー	特定できないエラーが発生しました。 指定したファイルを確認し再度処理を行ってください。
11002	ファイル未定義	ファイルが見つかりませんでした。 指定したファイルを確認し再度処理を行ってください。
11003	不正パス	パス名が不正です。 指定したファイルを確認し再度処理を行ってください。
11004	オープンファイル数超過	オープンしているファイル数が多いため 処理ができません。 他のアプリケーションを終了し再度処理を行ってください。

11005	ファイルアクセス禁止	ファイルのアクセスに失敗しました。 指定したファイルの属性を確認し再度処理を行ってください。
11006	不正ファイルハンドル使用	不正なファイルハンドルを使用しました。 指定したファイルを確認し再度処理を行ってください。 または、他のアプリケーションを終了し再度処理を行ってください。
11007	作業中のカレントディレクトリの削除不可	作業中のカレントディレクトリが削除できません。 指定したカレントディレクトリを確認し再度処理を行ってください。
11008	ディレクトリフル	ディレクトリが一杯です。 指定したディレクトリ配下のファイルを削除し再度処理を行ってください。
11009	ファイルポインタ設定エラー	ファイルポインタ設定に誤りがありました。 指定したファイルを確認し再度処理を行ってください。 または、他のアプリケーションを終了し再度処理を行ってください。
11010	ハードウェアエラー	ハードウェアエラーが発生しました。 端末のハードウェアが壊れる可能性があります。 端末の状況を確認し再度処理を行ってください。
11011	共有違反	共有違反が発生しました。 指定したファイルが他のアプリケーションで開いていないかを確認し再度処理を行ってください。
11012	ロック済み領域のロック要求	ロック済み領域はロックされています。 指定したファイルが他のアプリケーションで開いていないかを確認し再度処理を行ってください。
11013	ディスクフル	ディスク容量が不足しています。 不要なファイルを削除するか、他のドライブを指定し再度処理を行ってください。
11014	ファイルの終わりに到達	読み込み中にファイルの終わりに到達しました。 ファイルが壊れている可能性があります。

		指定したファイルを確認し再度処理を行ってください。
12000	エラー無し	端末の動作が不安定になる可能性があります。 アプリケーションを終了し再度処理を行ってください。
12001	未定義エラー	特定できないエラーが発生しました。 指定したファイルを確認し再度処理を行ってください。
12002	入力用ファイルへの書き込み	入力用にオープンしたファイルへ書き込もうとしました。 指定したファイルを確認し再度処理を行ってください。
12003	ファイルの終わりに到達	読み込み中にファイルの終わりに到達しました。 COUNTLOGファイルが壊れている可能性があります。 再度蓄積処理でCOUNTLOGファイルを新たに作成してください。
12004	出力用ファイルへの読み込み	出力用にオープンしたファイルから読み込もうとしました。 指定したファイルを確認し再度処理を行ってください。
12005	ファイルフォーマットエラー	ファイルフォーマットに誤りがあります。 指定したファイルを確認し再度処理を行ってください。
12006	ファイルフォーマットエラー	ファイルフォーマットに誤りがあります。 指定したファイルを確認し再度処理を行ってください。
12007	ファイルフォーマットエラー	ファイルフォーマットに誤りがあります。 指定したファイルを確認し再度処理を行ってください。

## 2.1 TF-EXCOUNTERの特長

TF-EXCOUNTERには、以下の特長があります。

1. テスト結果を構造面から評価する事により、テスト漏れを無くす事が可能  
プログラムのテスト結果を構造面から評価し、未実行命令を表示する事により、テスト漏れの箇所の確認ができます。確認結果から未実行命令を通過するテストケースを追加する事によって、テスト漏れを無くす事が可能です。
2. 機能テストと構造テストの同時実行が可能  
ソースプログラムを変更することなく実行情報を取得することができます。したがって、機能テストを実施しながら、命令実行網羅率の取得が可能です。
3. 命令実行網羅率の測定対象を絞込みが可能  
テスト対象範囲に限られる場合には、テスト対象外のステートメントを、命令実行網羅率の測定対象から除外する事が可能です。
4. テストケースなしモードでの測定が可能  
テストケースを意識せずに本ツールを使用する場合には、テストケースなしモードの使用が可能です。ただし、テストケース毎の実行情報の出力が行えません。そのため、テストケース毎の検証作業用資料としては活用できず、納品用資料の位置づけとなります。

## 2.2 TF-EXCOUNTERの適用のタイミング

テストのどの段階から、TF-EXCOUNTERを適用すれば効果的かを説明します。テストの形態は次の3つがあります。

1. 全テストケース完了後に適用する形態

全テストケースの完了後、命令実行網羅率を測定するために、再度同じテストケースを全て実行します。

2. テスト途中、ソース修正の頻度が少なくなってから適用する形態

ソース修正が発生したらリグレッションテストを実施後、次のテストケースへ進みません。

この形態は、中核となるロジックのテストが完了してから適用することをお勧めします。中核となるロジックに修正が発生した場合には、多くのテストケースに影響が発生し、手戻りが大きいからです。

3. テスト開始時から適用し、ソース修正が発生したらCOUNTLOGファイルを新たに作成する形態

テスト開始時から適用し、ソース修正が発生したらCOUNTLOGファイルを新たに作成してテストを続けます。全テストケース終了後、最後のソース修正以前に実行したテストケースだけを再実行します。

&lt;&lt; 前

次 &gt;&gt;

## 3.1 インストール/アンインストール

TF-EXCOUNTERのインストール/アンインストールについては、製品に付属するソフトウェア説明書を参照してください。

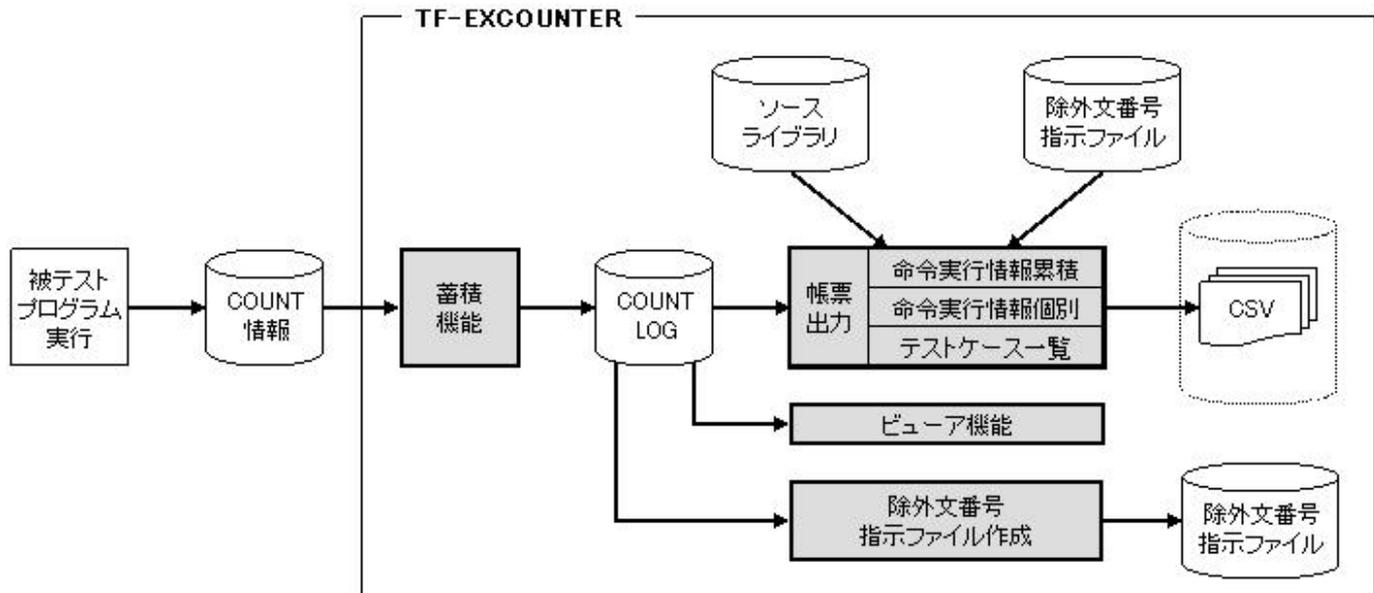
&lt;&lt; 前

次 &gt;&gt;

先頭行へ↑

## 4.1 TF-EXCOUNTERの機能一覧

本製品の全体構成を以下に示します。



No	機能名	機能概要
1	蓄積機能	被テストプログラム実行時にCOBOLから出力された、COUNT情報から、命令実行網羅率測定に必要な情報をCOUNTLOGファイルに蓄積します。
2	命令実行情報個別	被テストプログラム実行時の命令単位の実行回数を、テストケース毎(個別)にCOBOLソースに照らし合わせて出力します。(CSV形式ファイル)
3	命令実行情報累積	命令単位の実行回数を全テストケース分累積し、COBOLソースに照らし合わせて出力します。(CSV形式ファイル)
4	テストケース一覧	テストケース毎に総命令数に対する命令実行網羅率を出力(CSV形式ファイル)します。
5	ビューア機能	COBOLソースファイルと実行回数を表示します。
6	除外文番号指示ファイル作成機能	命令実行網羅率の測定対象を絞り込むための情報を出力します。COUNTLOGファイルの未実行行を自動的に抽出し、除外文番号指示ファイルとして出力します。このファイルに利用者が記述した除外理由は、「2.命令実行情報個別」、「3.命令実行情報累積」、「5.ビューア機能」にて出力されます。

## 4.2 各種帳票の活用方法

以下に各種帳票の活用方法を示します。

帳票名	テストケース		活用方法
	あり	なし	
命令実行情報個別	○	×	<p>テストケース毎に実行した経路などを確認し、デバッグの情報として活用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実行行と未実行行および、実行回数による実行経路の確認</li> <li>• 削除行、挿入行の行数比較により、リグレッションとして実行 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ テストケースへの影響有無が確認できます。</li> <li>◦ 影響しないテストケースであれば、削除、挿入は0件となります。</li> </ul> </li> </ul> <p>なお、修正行をコメントとし、コメントとした修正行をそのまま追加行とした場合は削除行＝追加行となります。</p>
命令実行情報累積	○	○	<p>納品用資料として、全テストケースの累積結果を出力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プログラム全体の実行経路の確認</li> <li>• 除外行と除外理由の整合性の確認</li> <li>• 命令実行網羅率によるテスト充分性の確認</li> </ul>
テストケース名一覧	○	×	<p>納品用の補足資料として、テストケース毎の実行情報を出力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テストケース毎の実行整合性の確認</li> <li>• 最終ソース修正日とテストケース実行日との比較</li> </ul>

## 5.1 起動/終了方法

TF-EXCOUNTERの起動/終了方法について説明します。

### 起動方法について

スタートメニューより「SIMPLIA TF-EXCOUNTER(COBOL)」を起動します。

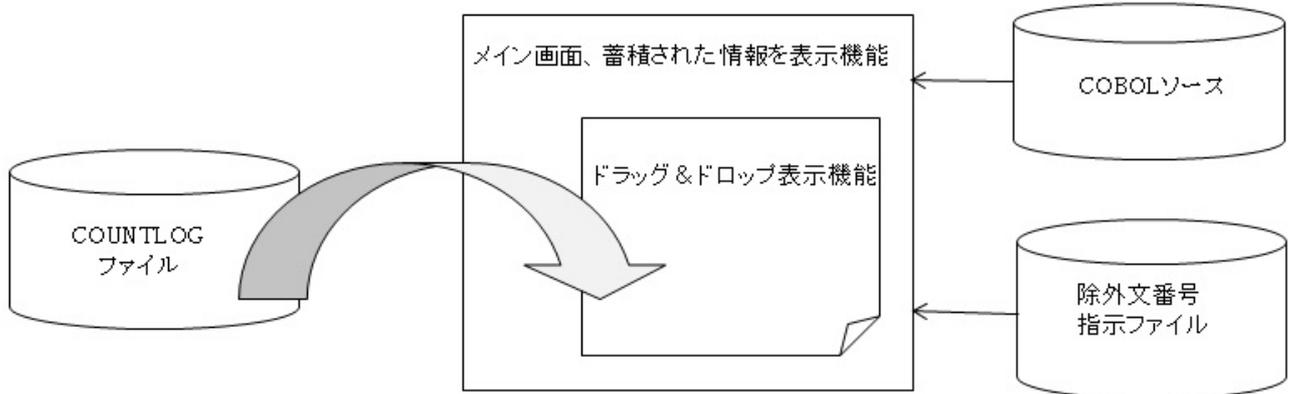
### 終了方法について

TF-EXCOUNTERを終了するときは、「ファイル(F)」メニューの、「SIMPLIA TF-EXCOUNTERの終了(X)」を選択します。その際、変更データが存在する場合は、保存するかどうかのメッセージボックスが表示されます。

## 5.9 ドラッグ & ドロップ表示機能

メイン画面にCOUNTLOGファイルをドラッグ & ドロップすることで、蓄積された情報の表示を行うことができます。

### 1) 機能構成



### 2) ドラッグ & ドロップ表示機能の使用手順

メイン画面にCOUNTLOGファイルをドラッグ & ドロップすることで、蓄積された情報を表示します。

#### 注意



複数のCOUNTLOGファイルをドラッグ & ドロップする場合:

エクスプローラ上で複数ファイルが選択(反転)状態だった場合でも、ドラッグ時にアクティブ(カーソルが当たっている)1ファイルのみを表示します。



## 6.1 メニュー(メイン画面)

メイン画面の各メニューについて説明します。



## 6.10.1 環境設定画面

No	項目	設定内容
(1)	カレントフォルダ(N)	各画面で、フォルダ名を省略してファイル名のみを指定した場合に適用されるカレントフォルダを指定します。参照(D)ボタンでのみ指定できます。
(2)	参照(D)	ボタンをクリックするとフォルダ選択ダイアログを表示します。 フォルダ選択ダイアログからカレントフォルダを指定します。
(3)	作業用フォルダ(W)	TF-EXCOUNTERが一時的に使用するファイルが作成されるフォルダを指定します。 初期状態として、環境変数"TEMP"で指定されているフォルダ名を表示します。
		ボタンをクリックするとフォルダ選択ダイアログを表示します。

(4)	参照(T)	フォルダ選択ダイアログから作業用フォルダを指定します。
(5)	CSVファイル表示プログラム(C)	<p>CSVファイルを表示するプログラムを指定します。</p> <p>CSVファイル表示プログラムには、表計算プログラムでCSVファイル形式が表示可能なプログラムを指定してください。</p> <p>表示プログラムを指定することにより、<a href="#">ファイルメニュー</a>の“CSVファイルを開く”を選択した場合に<a href="#">帳票出力機能</a>で作成したCSVファイルを開くことができます。</p>
(6)	参照(V)	<p>ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。</p> <p>ファイル選択ダイアログを使用してCSVファイル表示プログラムを指定します。</p>
(7)	除外文番号指示ファイル編集プログラム(E)	<p>除外文番号指示ファイルを編集するプログラムを指定します。</p> <p>除外文番号指示ファイル編集プログラムには、テキストファイルが編集できるプログラムを指定してください。</p> <p>編集プログラムを指定することにより、<a href="#">ファイルメニュー</a>の“除外文番号指示ファイルを開く”を選択することで<a href="#">除外文番号指示ファイル作成機能</a>で作成した除外文番号指示ファイルを開くことができます。</p>
(8)	参照(F)	<p>ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。</p> <p>ファイル選択ダイアログを使用して除外文番号指示ファイル編集プログラムを指定します。</p>
(9)	COBOLソースファイル(S)	COBOLソースファイルの文字コードを指定します。使用するCOBOLソースファイルの文字コードを指定してください。
(10)	COUNT情報ファイル(I)	COUNT情報ファイルの文字コードを指定します。使用するCOUNT情報ファイルの文字コードを指定してください。
(11)	出力ファイル(O)	<p>出力CSVファイル、除外文番号指示ファイルの文字コードを指定します。ファイルは指定した文字コードで出力されます。</p> <p>除外文番号指示ファイルについては、入力時の文字コードとしても使用されます。</p>
(12)	OK	設定した情報を保存する場合、クリックします。
(13)	キャンセル	設定した情報を保存しない場合、クリックします。

(14)	ヘルプ	クリックすると、ユーザーズガイドを表示します。
------	-----	-------------------------

## 注意

---



作業用フォルダについて

作業用フォルダには、ドライブのルートディレクトリは指定しないでください。



各設定項目について

全ての項目はフルパスで設定してください。

UNC名は使用できません。ローカルコンピュータの物理ドライブ、またはネットワークドライブのみ指定可能です。

---

## 7.1 帳票出力(CSVファイル)説明

帳票出力で出力される帳票(CSVファイル)について説明します。

## 7.2 除外文番号指示ファイル説明

除外文番号指示ファイルはテキストファイルで作成されます。

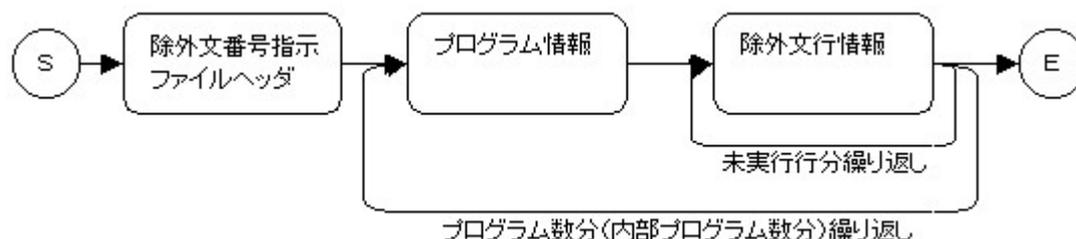


表7.20 除外文番号指示ファイルヘッダ

No	設定値	設定内容
1	SIMPLIA TF- EXCOUNTER△除外文番 号指示ファイル	除外文番号指示ファイルの識別レコード です。 この書式以外は、除外文番号指示フ ァイルとしては無効となります。 △は半角空白となります。

表7.21 プログラム情報

No	設定値	設定内容
1	*****[Program]*****	COBOLの場合、 <i>Program</i> にプログラム 名を指定します。 この書式以外は、除外文番号指示フ ァイルとしては無効となります。

表7.22 除外文行情報

No	設定値	設定内容
1	nnnnnn除外理由	nnnnnnには6桁の行番号を指定します。 除外理由には除外理由を指定します。 この書式以外は、除外文番号指示フ ァイルとしては無効となります。

除外文番号指示ファイル例

プログラム名“JYUCHU”の222行目の除外理由として“エラー処理のため”を設定する場合

記述例：

```

SIMPLIA TF-EXCOUNTER 除外文番号指示ファイル
*****[JYUCHU]*****
000222エラー処理のため
  
```

## 8.1 制限・注意事項

### 1. 前提条件

- 測定対象プログラムは、COUNTオプションでコンパイルされていなければなりません。

### 2. 制限・注意事項

- 蓄積機能の蓄積モードがNUMBER指定の場合、ソースプログラム内行番号は昇順に付けられていなければなりません。
- PROCEDURE DIVISION内でINCLUDE文は使用できません。無視します。
- PROCEDURE DIVISION内でのCOPY文については、帳票にソース情報は表示されません。また、ビューア表示時はCOPY文を無視します。
- COBOLソースファイルには、PROGRAM-IDおよびPROCEDURE DIVISIONが含まれていなければなりません。COPY句内で宣言は行わないでください。
- 実行命令語(IF、MOVEなど)、CONTINUE、EXIT、手続き名は、1行に2つ以上記述してはなりません。もし記述した場合には、2番目以降の命令語は無視されます。
- 命令実行網羅率測定中のソースプログラムについて、全テストケースの測定が終了するまでに、リナンバを行った場合には結果は保障されません。この場合には、そのプログラムのCOUNTLOGファイルを再度作り直してください。
- COBOLの場合、クラスおよびメソッドは測定できません。
- COBOLの場合、正書法はFIXまたはVARでなければなりません。FREEでは動作しません。
- 除外文番号指示ファイルおよび帳票出力で出力したCSVファイルは常に上書きとなります。
- 蓄積機能では以下の場合、最終蓄積COUNT情報ファイル日付、最終蓄積COUNT情報ファイル時間は古い日時で蓄積されます。
  - 初回蓄積COUNT情報ファイル日付、初回蓄積COUNT情報ファイル時間より古い日時のCOUNT情報ファイルを蓄積した場合
- 全ての命令が実行回数0の場合に、除外文番号指示ファイルを使用し帳票出力した場合でも、命令実行網羅率は0%となります。
- 環境設定で指定する作業用フォルダには、ドライブのルートディレクトリは指定しないでください。
- COBOL拡張オプションを利用したプログラムの網羅率測定時は、COUNT情報、およびソースプログラムはShift-JISもしくはUTF-8をサポートします。
- PROCEDURE DIVISION宣言や、PROGRAM-IDは、単一行内に記述してください。
- 見出し部のAUTHORなどの注釈にPROCEDURE DIVISIONのキーワードが存在する場合、ビューアや帳票にソース内容が出力されます。
- COBOLが出力するCOUNT情報ファイルのサイズが2GBを超えている場合、ファイルのアクセスに失敗する場合があります。

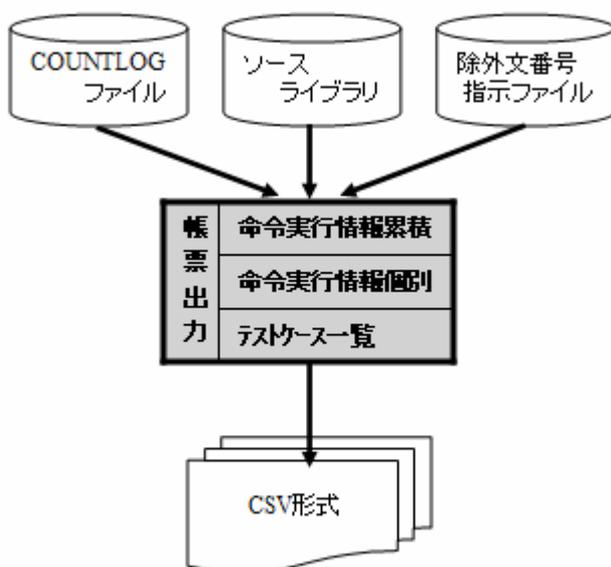
- 環境設定画面で指定した文字コードと、実際に使用するファイルの文字コードは同じでなければなりません。
- 入力ファイルの文字コードがUTF-8の場合、Shift-JISコード範囲外の文字は“?”(代替文字)に変換されて出力ファイルに出力されます。
- JIS2004の4バイトコードで表現される文字を使用した場合は、正しく動作しません。
  - 入力項目に入力した場合
  - 文字を含むフォルダ名、ファイル名を選択した場合
- 除外文番号指示ファイルに512バイト以上の除外理由を記述した場合、ビューア・帳票には512バイトまで表示されます。
- SIMPLIA TF-EXCOUNTER では、255バイト以上のパスを取り扱うことができません。
- 入力ファイルの改行コードにCR+LF以外が使用された場合、正しく動作しません。
- 帳票出力コマンドを使用して帳票出力を行う場合、除外文番号指示ファイルの文字コードは自動で識別します。但し、文字コードはShift-JISもしくは、BOMありのUTF-8をサポートします。

## 5.5 帳票出力

TF-EXCOUNTERは、COUNTLOGファイルの情報を編集して、CSV形式にて帳票を出力する事が可能です。帳票の種類としては、以下の3種類があります。

帳票名	概要
命令実行情報累積	全テストケースの情報を累積しソースコードと共に帳票を作成します。
命令実行情報個別	選択されたテストケースの情報をソースコードと共に帳票を作成します。
テストケース一覧	全テストケースの情報を一覧形式の帳票として作成します。

### 1) 機能構成



### 2) 帳票出力機能の使用手順

1. [ファイルメニュー](#)の「COUNTLOGファイルを開く」または、[ツールバー](#)の「開く」を選択します。
2. メイン画面より、[コマンドメニュー](#)または、[コマンドボタンバー](#)から「帳票出力(P)」を選択します。
3. 帳票出力画面より、帳票種別/COBOLソースファイル名/出力オプションを設定し、OKボタンを押下します。
4. CSV形式の帳票が出力されます。

---

出力される帳票については以下を参照して下さい。

[7.1 帳票出力\(CSVファイル\)説明](#)

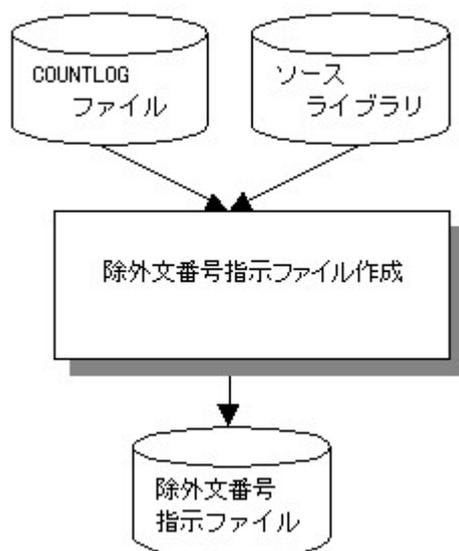
---



## 5.6 除外文番号指示ファイル作成

COUNTLOGファイルとソースプログラムから、未実行行を抽出し、除外文番号指示ファイルとして出力します。

### 1) 機能構成



### 2) 除外文番号指示ファイル作成機能の使用手順

1. [ファイルメニュー](#)の「COUNTLOGファイルを開く(O)」または、[ツールバー](#)の「開く」を選択します。
2. [コマンドメニュー](#)または、[コマンドボタンバー](#)から「除外文番号(E)」押下します。
3. 除外文番号画面にてCOBOLソースファイル名(S)、出力する除外文番号指示ファイルを設定後に、OKボタンを押下します。

### 参考



#### 除外文番号指示ファイル作成について

除外文番号指示ファイル作成では、除外文行情報の除外理由を設定せずに出力します。そのため、テキストエディタを利用し、除外理由を設定してください。除外理由は512バイト(全角256文字)まで有効です。

### 参照

除外文番号指示ファイルのフォーマットについては以下を参照して下さい。

#### [7.2 除外文番号指示ファイル説明](#)

---

◀ 前

次 ▶

先頭行へ ▲

Copyright 1999-2016 FUJITSU LIMITED

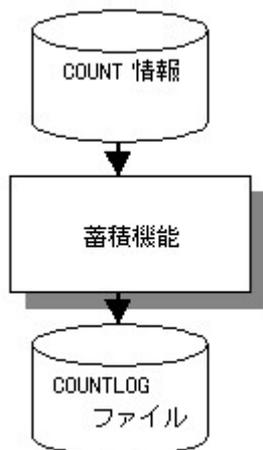
## 5.7 コマンドライン

蓄積コマンド、帳票出力コマンドについて説明します。

## 5.2 蓄積機能

プログラム実行時にCOBOLから出力されたCOUNT情報から、命令実行網羅率測定に必要な情報をCOUNTLOGファイルに蓄積します。

### 1) 機能構成



### 2) 蓄積機能の使用手順(画面)

1. ファイルメニューの“COUNTLOGファイルを新規作成”、ツールバーの“新規作成”又は、
2. [コマンドメニュー](#)、[コマンドボタンバー](#)の“蓄積機能”を選択します。
3. [初期情報設定画面](#)にて「COUNTLOGファイル格納フォルダ」、「COUNT情報ファイル」を設定し、次へボタンを押下します。
4. [蓄積情報設定画面](#)にて定義プログラム、詳細情報を設定し、「次へ」ボタンを押下します。
5. [蓄積情報確認画面](#)にて設定された情報を確認後、完了ボタンを押下します。

### 注意



蓄積モード、作成種別について

蓄積モード、作成種別は蓄積対象とするプログラム情報と間違わずに指定してください。誤った指定を行った場合、帳票出力、除外文番号の処理が正しく動作しません。

### 参考



テストケース名について

テストケース名の最大長は、255バイトまで指定可能です。



COUNTLOGファイル名について

COUNTLOGファイルは、[初期情報設定画面](#)で指定した“COUNTLOGファイル格納フォルダ”配下に作成されます。

ファイル名は、“プログラム名.clg”となります。

---



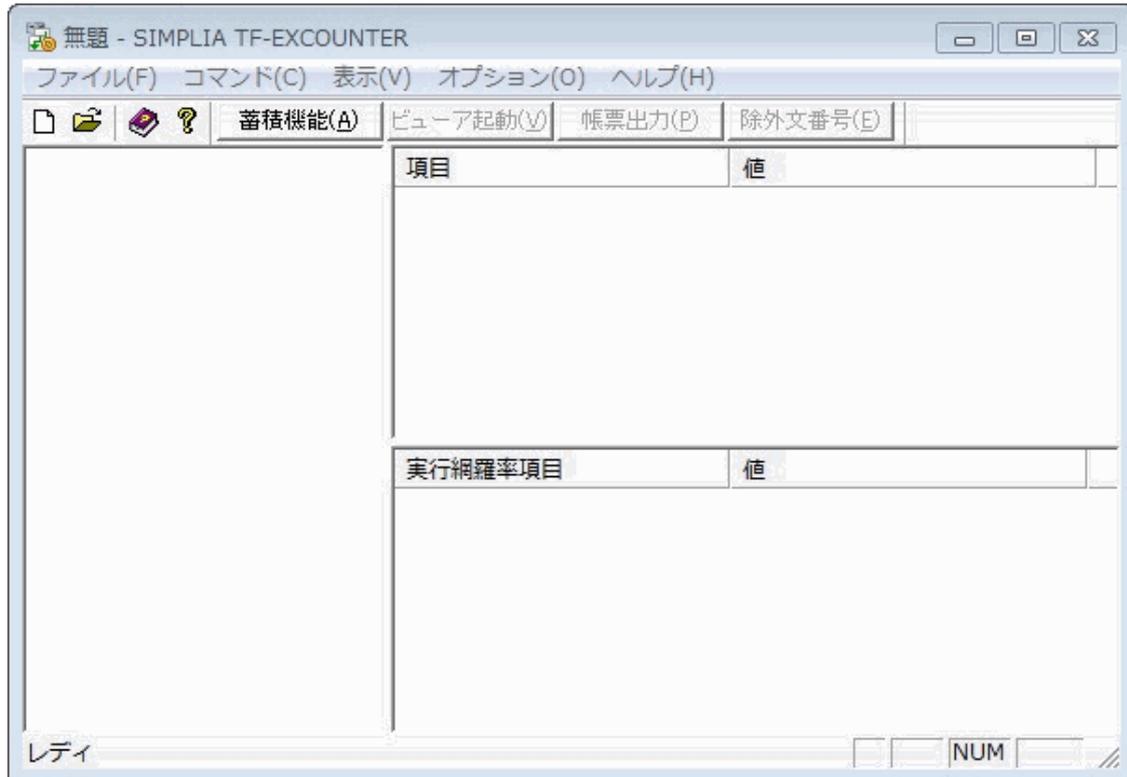


## 5.8.2 TF-EXCOUNTER使用手順

### 1. TF-EXCOUNTERの起動

TF-EXCOUNTERを起動します。

起動方法については「[5.1 起動/終了方法](#)」を参照して下さい。



### 2. COUNTLOGファイルの作成

メイン画面より、ファイルメニューの「COUNTLOGファイルを新規作成(N)」、または、ツールバーの「新規作成」を選択します。

※既存のCOUNTLOGファイルに情報の蓄積が可能な“蓄積機能”からも新規作成が可能です。

初期情報設定画面

蓄積機能

初期情報を設定して下さい。

COUNTLOGファイル格納フォルダ(C):

参照(D)...

COUNT情報ファイル(S):

参照(F)...

<戻る(B) 次へ(N)> キャンセル ヘルプ

初期情報設定画面にて以下を設定し、「次へ(N)」ボタンを押下します。

No	名称	設定内容
1	COUNTLOGファイル格納フォルダ(C)	COUNTLOGファイルを作成するフォルダを指定します。
2	COUNT情報ファイル(S)	サンプルプログラムから出力したCOUNT情報ファイル“cnt.log”を指定します。

蓄積機能

初期情報を設定して下さい。

COUNTLOGファイル格納フォルダ(C):

参照(D)...

COUNT情報ファイル(S):

参照(F)...

<戻る(B) 次へ(N)> キャンセル ヘルプ

蓄積情報設定画面で以下を設定し、「次へ(N)」を押下します。

No	名称	設定内容
1	定義プログラム(L)	SAMPLEにチェックをします。
2	新規にCOUNTLOGファイルを作成する(O)	新規作成時は指定不可です。 (チェックONの状態です。)
3	蓄積モード	「NONUMBER」を選択します。
4	作成種別	「COBOL」を選択します。
5	テストケース名	「無し」を選択します。

蓄積機能

蓄積情報を設定して下さい。

定義プログラム(L)

- SAMPLE

詳細情報

プログラム名: SAMPLE

新規にCOUNTLOGファイルを作成する(O)

蓄積モード

- NONUMBER(X)
- NUMBER(Y)

作成種別

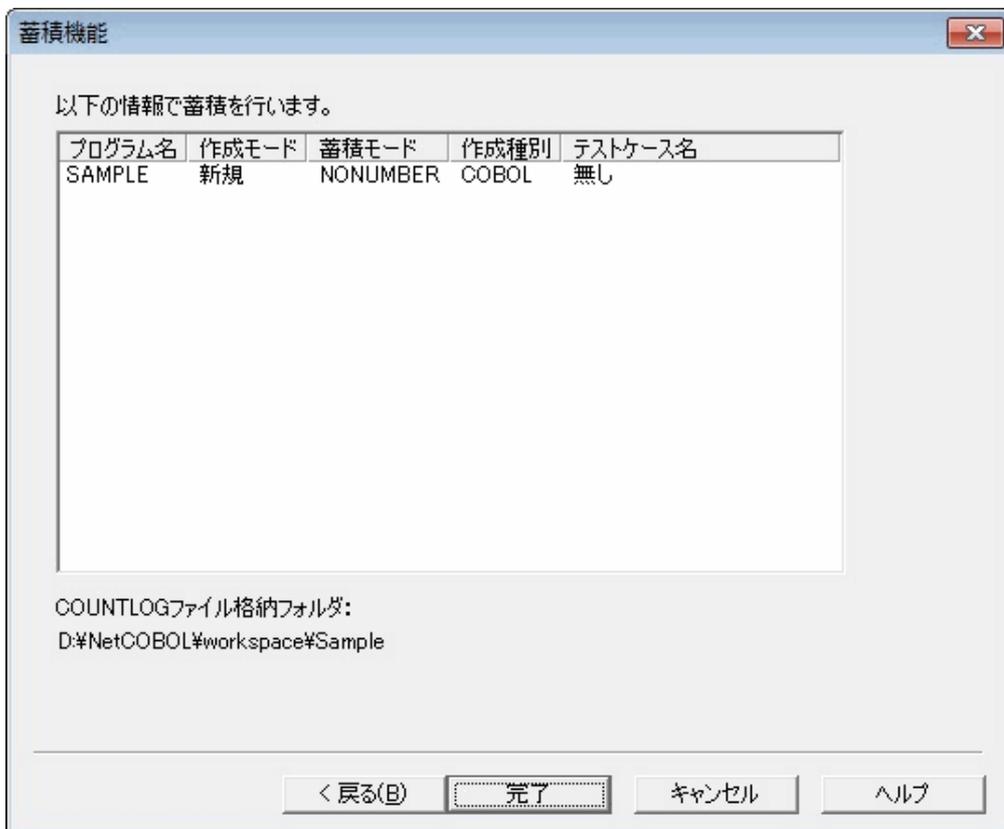
- COBOL(C)

テストケース名

- 無し(S)
- 有り(D)

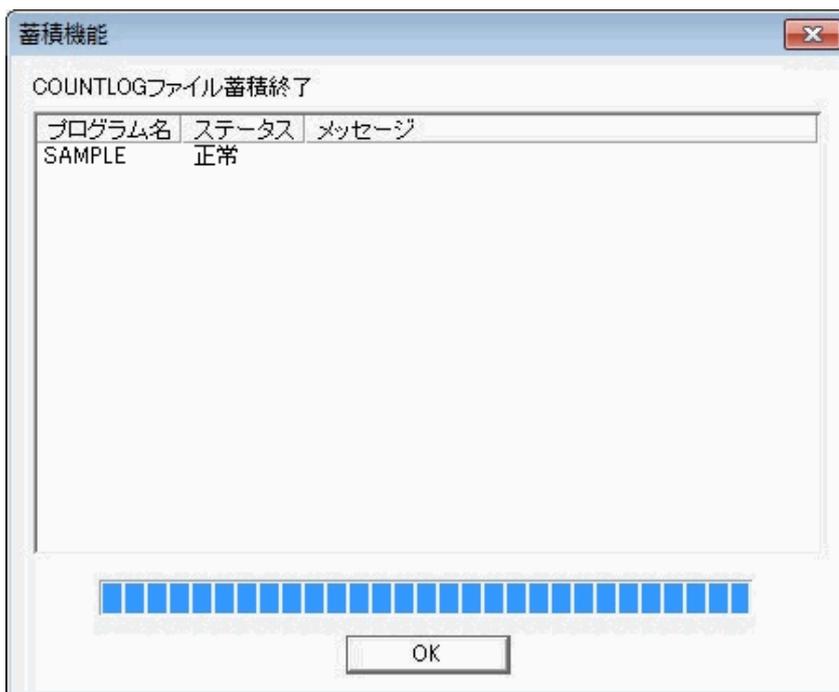
< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル    ヘルプ

蓄積情報確認画面が表示されるため、表示情報を確認し、「完了」ボタンを押下します。



蓄積状況表示画面が表示されます。

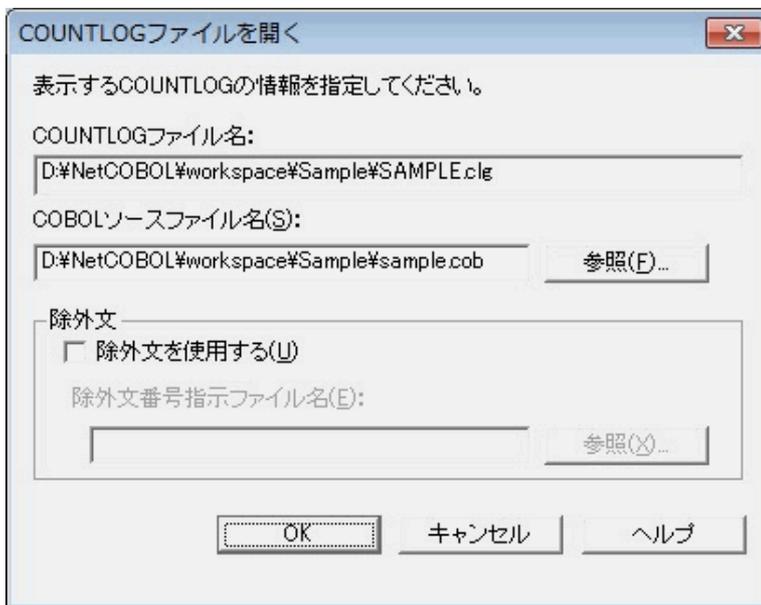
蓄積結果が正常に終了していることを確認し、「OK」ボタンを押下します。



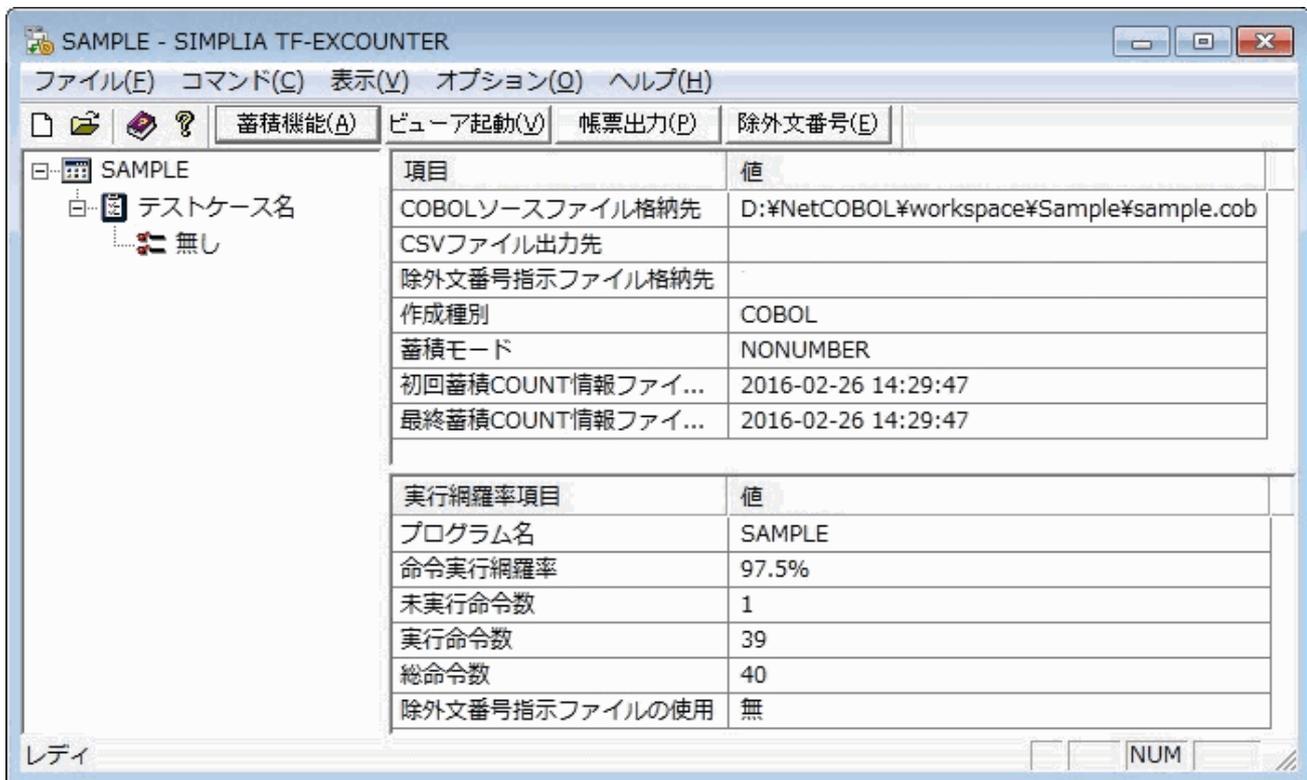
### 3. COUNTLOGファイルの取込み

ファイルメニューから“COUNTLOGファイルを開く”を選択し、ファイル選択画面からCOUNTLOGファイルを選択します。

“COUNTLOGファイルを開く”画面が表示されるので、COBOLソースファイルを選択します。



“OK”ボタンを押下すると、“SAMPLE.clg”の情報が表示されます。  
表示情報の説明は「[6.5.1 メイン画面](#)」を参照して下さい。



#### 4. 命令実行情報累積帳票の出力

[コマンドメニュー](#)、または、[コマンドボタンバー](#)の“帳票出力”より対象プログラムの命令実行網羅率を帳票出力します。

帳票出力画面に以下を設定し、「OK」ボタンを押下します。

No	名称	設定内容
1	帳票種別	命令実行情報累積を選択します。
2	COBOLソースファイル名(S)	サンプル資産のCOBOLソースファイル名を指定します。
3	出力CSVファイル名(C)	出力CSVファイル名を指定します。
4	簡易版ヘッダー情	チェックOFFの状態にします。(初期値)

	報を出力する(H)	
5	除外文を使用する(U)	チェックOFFの状態にします。(初期値)

帳票出力

出力する帳票の情報を設定して下さい。

COUNTLOGファイル名:

帳票種別  
 命令実行情報累積(B)  
 命令実行情報個別(K)   
 テストケース一覧(D)

COBOLソースファイル名(S):

出力CSVファイル名(O):

出力オプション  
 簡易版ヘッダー情報を出力する(H)  
 除外文を使用する(U)  
 除外文番号指示ファイル名(E):

## 6.1.1 [ファイル]メニュー



No	項目	内容
1	COUNTLOGファイルを新規作成(N)	COUNTLOGファイルを新規作成するときに選択します。
2	COUNTLOGファイルを開く(O)	既存のCOUNTLOGファイルを開くときに選択します。
3	CSVファイルを開く(C)	直前に作成されたCSVファイルを開くときに選択します。 予め <a href="#">環境設定</a> のCSVファイル表示プログラムを指定しなければなりません。
4	除外文番号指示ファイルを開く(E)	除外文番号指示ファイルを開くときに選択します。 予め <a href="#">環境設定</a> の除外文番号指示ファイル編集プログラムを指定しなければなりません。
5	COBOLソースファイル格納先(S)	COBOLソースファイルの格納先を変更するときに選択します。
6	CSVファイル出力先(F)	CSVファイルの出力先を変更するときに選択します。
7	除外文番号指示ファイル格納先(B)	除外文番号指示ファイルの格納先を変更するときに選択します。
8	最近使ったファイル	最近使ったCOUNTLOGファイルが最大5個表示されます。

9	SIMPLIA TF-EXCOUNTERの終了(X)	TF-EXCOUNTERを終了します。
---	----------------------------	---------------------

---

◀ 前

次 ▶

先頭行へ ⬆



## 6.10 環境設定

環境設定画面について説明します。



## 7.1.1 命令実行情報累積

表7.1 [オリジナルヘッダー部]

[製品名称]	[帳票種別]	[作成日時]			
プログラム名	初回蓄積COUNT情報ファイル日付	初回蓄積COUNT情報ファイル時間	最終蓄積COUNT情報ファイル日付	最終蓄積COUNT情報ファイル時間	COBOLソースファイル

No	編集項目	編集内容概要
1	製品名称	製品名称を編集します。
2	帳票種別	帳票種別を編集します。
3	作成日時	CSVファイルの作成日時を編集します。
4	プログラム名	指定されたCOUNTLOGファイルのプログラム名を編集します。
5	初回蓄積COUNT情報ファイル日付	最初に蓄積を行ったCOUNT情報の日付を編集します。
6	初回蓄積COUNT情報ファイル時間	最初に蓄積を行ったCOUNT情報の時間を編集します。
7	最終蓄積COUNT情報ファイル日付	最後に蓄積を行ったCOUNT情報の日付を編集します。
8	最終蓄積COUNT情報ファイル時間	最後に蓄積を行ったCOUNT情報の時間を編集します。
9	COBOLソースファイル	帳票出力で指定されたCOBOLソースファイル名を編集します。

表7.2 [簡易版ヘッダー部]

帳票種別	プログラム名	テストケース名	COBOLソースファイル	除外文

No	編集項目	編集内容概要
1	帳票種別	出力した帳票の帳票種別を編集します。
2	プログラム名	指定されたCOUNTLOGファイルのプログラム名を編集します。
3	テストケース名	帳票出力で指定されたテストケース名を編集します。 命令実行情報累積の場合、テストケース名には“-”を表示します。
4	COBOLソースファイル	帳票出力で指定されたCOBOLソースファイル名を編集します。 COBOLソースファイル名のみが出力されます。
5	除外文	帳票出力で指定された除外文番号指示ファイル名を編集します。 除外文情報を指定しない場合は、“-”を表示します。除外文番号指示ファイル名のみが出力されます。

表7.3 [ディテール部]

未実行マーク	行番号	ソースコード	除外理由	実行回数
--------	-----	--------	------	------

No	編集項目	編集内容概要
1	未実行マーク	累積した実行回数を元に以下の場合、未実行マークを編集します。 ・未実行行の場合…X 注)未実行行とは、COUNT情報を蓄積した結果実行回数が0の行のことです。
2	行番号	COBOLソースファイルの行番号を編集します。 ただし、PROCEDURE DIVISIONのみです。
3	ソースコード	COBOLソースファイルのソースコードを編集します。 ただし、PROCEDURE DIVISIONのみです。
4	除外理由	除外文番号指示ファイルが指定されている且つ、除外対象の場合、除外理由を“#”記号を先頭に付加し編集します。
5	実行回数	累積した実行回数を編集します。

表7.4 [フッター部]

テストケース数	総命令数	実行命令数	未実行命令数	命令実行網羅率	挿入行数	削除行数
---------	------	-------	--------	---------	------	------

No	編集項目	編集内容概要
1	テストケース数	COUNTLOG内のテストケースの数を編集します。
2	総命令数	COBOLソースファイルの総命令数を編集します。 ただし、PROCEDURE DIVISIONのみでかつ除外文は除きます。
3	実行命令数	実行された命令数を編集します。
4	未実行命令数	未実行命令数を編集します。
5	命令実行網羅率	実行命令数/総命令数で算出します。
6	挿入行数	累積したテストケースの挿入行数を編集します。
7	削除行数	累積したテストケースの削除行数を編集します。

## 参考



1. 除外文と総命令数、実行命令数、未実行命令数および命令実行網羅率について  
 “除外文を使用する”をチェックした場合、除外文番号指示ファイルで指示された行番号は、総命令数、実行命令数および未実行命令数の対象となりません。  
 そのため、全ての未実行命令に対して除外文番号指示ファイルで行番号が指示されている時は、命令実行網羅率は100%となります。

2. 地域と言語の設定によって、作成日時を表示フォーマットは以下である：

- |                  |             |                       |
|------------------|-------------|-----------------------|
| 「表示形式」: 日本語      | 「表示言語」: 英語  | YYYY/MM/DD HH:MM:SS   |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | YYYY年MM月DD日 HH時MM分SS秒 |
| 「表示形式」: 英語       | 「表示言語」: 英語  | MM/DD/YYYY HH:MM:SS   |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | MM/DD/YYYY HH:MM:SS   |
| 「表示形式」: 日本語や英語以外 | 「表示言語」: 英語  | MM/DD/YYYY HH:MM:SS   |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | YYYY年MM月DD日 HH時MM分SS秒 |

初回蓄積COUNT情報ファイル日付と最終蓄積COUNT情報ファイル日付の表示フォーマットは以下である：

- |                  |             |            |
|------------------|-------------|------------|
| 「表示形式」: 日本語      | 「表示言語」: 英語  | YYYY-MM-DD |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | YYYY-MM-DD |
| 「表示形式」: 英語       | 「表示言語」: 英語  | MM-DD-YYYY |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | MM-DD-YYYY |
| 「表示形式」: 日本語や英語以外 |             |            |

## 注意

---



### 除外理由について

除外理由は、“除外文を使用する”をチェックしたときのみ出力されます。

“除外文を使用する”のチェックを外した場合は出力されませんのでご注意ください。



### 挿入行数、削除行数について

挿入行数と削除行数の編集は、作成種別がCOBOLで、かつ、蓄積モードがNUMBERのときのみ出力されます。

他のモードのときは出力されませんのでご注意ください。

蓄積モードがNUMBERで、初回にCOUNTLOGファイルを蓄積後に出力された帳票は挿入行数、削除行数は“0”となります。

COBOLソースの修正を行い、再度蓄積を行うと出力された帳票に挿入行数、削除行数の情報が反映されます。

---

## 7.1.7 テストケース一覧 出力例

表7.18 [オリジナルヘッダー部]

SIMPLIA TF-EXCOUNTER VXXLXX	テストケース一覧	作成日 時:YYYY年MM月DD日 HH時MM分SS秒
-----------------------------	----------	-----------------------------------

プログラム名	初回蓄積COUNT 情報ファイル日付	初回蓄積COUNT 情報ファイル時間	最終蓄積COUNT 情報ファイル日付	最終蓄積COUNT 情報ファイル時間	COBOLソースファイル
JYUCHU	1999-04-23	11:07:27	1999-04-23	11:07:27	C:¥Program¥JYUCHU.cob

表7.19 [簡易版ヘッダー部]

帳票種別	プログラム名	テストケース数	COBOLソースファイル	除外文
テストケース一覧	JYUCHU	1	JYUCHU.cob	JYUCHU.end

テストケース名	命令 実行 網羅 率	総 命令 数	実 行 命令 数	初回蓄 積COUNT情 報ファイル 日付	初回蓄 積COUNT情 報ファイル 時間	最終蓄 積COUNT情 報ファイル 日付	最終蓄 積COUNT 情報ファ イル時間
JYUCHU_CASE1	75.00%	40	30	1999-04-23	11:07:27	1999-04-23	11:07:27

## 5.4 ビューア

COUNTLOGファイルとソースプログラムから実行行情報を表示します。

### 1) ビューアの使用手順

1. ファイルメニューの「COUNTLOGファイルを開く(O)」を選択しCOUNTLOGファイルを開きます。
2. メイン画面より、COUNTLOGファイルツリー上で右クリック後に表示されるポップアップメニュー、コマンドメニューもしくは、コマンドボタンの「ビューア起動」を選択します。
3. ビューア起動画面より、COBOLソースファイル名、テストケース名、および除外文を使用する場合は、除外文番号指示ファイルを設定し押下します。
4. ビューアメイン画面より、実行情報を確認します。

### 参考



#### ビューア起動画面について

テストケース名がある場合、“\*”を選択して“OK”を選択すると、全てのテストケース情報をマージして実行回数を表示します。テストケース名を指定した場合には、テストケース情報毎の実行回数を表示します。

### 2) ビューアメイン画面の機能について

ビューアメイン画面では行番号を設定することで、任意の行へカーソルを移動させることが出来ます。

1. ビューアメイン画面上で編集メニューの「ジャンプ(J)」を選択します。
2. ジャンプ画面で行番号を設定します。
3. ジャンプ(J)ボタンを押下後、設定した行番号へカーソルが移動します。

また、以下の手順でフォントの変更ができます。

1. ビューアメイン画面上で表示メニューの「フォント(F)」を選択します。
2. 表示したフォント/スタイル/サイズを指定します。
3. OKボタンを押下後、指定された情報にて表示します。

## 6.2 ツールバー



No	項目	内容
1	新規作成	COUNTLOGファイルを新規作成するときに選択します。
2	開く	既存のCOUNTLOGファイルを開くときに選択します。
3	TF-EXCOUNTER ヘルプ	ユーザーズガイドを表示します。
4	バージョン情報	バージョン情報を表示します。

&lt;&lt; 前

次 &gt;&gt;

## 6.1.2 [コマンド]メニュー

蓄積機能(A)...  
ビューア起動(V)...  
帳票出力(P)...  
除外文番号(E)...

No	項目	内容
1	蓄積機能(A)	蓄積機能の <a href="#">初期情報設定画面</a> を表示します。
2	ビューア起動(V)	<a href="#">ビューア起動画面</a> を表示します。
3	帳票出力(P)	<a href="#">帳票出力画面</a> を表示します。
4	除外文番号(E)	<a href="#">除外文番号画面</a> を表示します。

&lt;&lt; 前

次 &gt;&gt;

先頭行へ▲

## 6.3 コマンドボタナー

蓄積機能(A) | ビューア起動(V) | 帳票出力(P) | 除外文番号(E)

No	項目	内容
1	蓄積機能(A)	蓄積機能の初期情報設定画面を表示します。
2	ビューア起動(V)	ビューア起動画面を表示します。
3	帳票出力(P)	帳票出力画面を表示します。
4	除外文番号(E)	除外文番号画面を表示します。

## 5.7.1 蓄積コマンド

インストール配下のtfexccmd.exeをコマンドプロンプト上で実行することで、複数のCOUNT情報ファイルを指定して蓄積処理を行うことができます。

以下にコマンド入力形式と機能について説明します。

### 5.7.1.1 実行形式

コマンドの記述形式を示します。記述形式は以下の規約で記述しています。

- 通常の文字で記述されている語は、そのとおりに入力することを示しています。
- 形式中の日本語の語は、置き換えて入力することを示しています。
- [ ]で囲まれている部分は、省略可能であることを示しています。また、省略された場合は、括弧中の下線のある語が選択されることを示しています。
- 前述の括弧中に“ $\alpha$  |  $\beta$ ”と語句がわかれている部分は、 $\alpha$ および $\beta$ が選択対象であることを示しています。
- 各オプションについて大文字・小文字は区別しません。

蓄積コマンド:

```
tfexccmd /OUT フォルダ名 [/NEW] [/MODE NONNUMBER | NUMBER] [/TCASE テストケース名]
[/CODE SJIS | UTF8] [/TEMP フォルダ名] ファイル名 ...
```

### 5.7.1.2 オプション

オプション	種別	設定内容
/OUT	必須	COUNTLOGファイル格納フォルダ名を指定します。 /OUTの後ろに半角スペースを空けてフォルダ名を指定してください。 注) ・絶対パス、相対パスの両方に対応しています。
/NEW	任意	新規にCOUNTLOGファイルを作成する場合指定します。 注) ・同名のCOUNTLOGファイルが存在するとき上書きします。
/MODE	任意	蓄積モードを指定します。 /MODEの後ろに半角スペースを空けて、NONNUMBERもしくはNUMBERをコンパイルオプションに合わせて指定してください。 注)

		・指定されていない場合はNONUMBER指定になります。
/TCASE	任意	<p>テストケース名を指定します。</p> <p>/TCASEの後ろに半角スペースを空けてテストケース名を指定してください。指定されていない場合はテストケース名無しになります。</p> <p>半角255バイト、全角127文字以内のテストケース名を指定してください。</p> <p>注)</p> <p>・既にCOUNTLOGファイルが存在する場合、以下のケースではエラーとなります。蓄積処理を行いません。</p> <p>COUNTLOGファイル内にテストケースが存在する時、実行オプションでテストケースを指定しなかった場合。</p> <p>COUNTLOGファイル内にテストケースが存在しない時、実行オプションでテストケースを指定した場合。</p>
/CODE	任意	<p>COUNT情報ファイルの文字コードを指定します。</p> <p>/CODEの後ろに半角スペースを空けてSJISもしくはUTF8を指定してください。</p> <p>注)</p> <p>・指定されていない場合はSJIS指定になります。</p>
/TEMP	任意	<p>TF-EXCOUNTERが一時的に使用するファイルが作成されるフォルダを指定します。</p> <p>/TEMPの後ろに半角スペースを空けてフォルダ名を指定してください。</p> <p>注)</p> <p>・指定されていない場合は環境変数"TEMP"で指定されているフォルダになります。</p>
ファイル名	必須	<p>COUNT情報ファイル名を指定します。</p> <p>複数ファイルを指定する場合は、スペースで区切ってください。</p>

### 5.7.1.3 使用例

蓄積コマンドの使用例を以下に記載します。

```
C:¥> tfexccmd /MODE NONUMBER /OUT C:¥DATA C:¥count. log
```

複数ファイル指定する時は、以下のように指定します。

```
C:¥> tfexccmd /OUT C:¥DATA C:¥count1. log C:¥count2. log C:¥count3. log
```

## 5.3 蓄積情報表示

COUNTLOGファイルとソースプログラムからメイン画面で命令実行網羅率を表示します。

### 1) COUNTLOGファイルの使用手順

1. [ファイルメニュー](#)の「COUNTLOGファイルを開く」または、[ツールバー](#)の「開く」を選択します。
2. ファイル選択画面からCOUNTLOGファイルを選択します。
3. COUNTLOGファイル展開画面からCOBOLソースファイル名を選択します。
4. 除外文を使用する場合は、除外文番号指示ファイル名を選択します。選択時は除外文情報が反映されます。

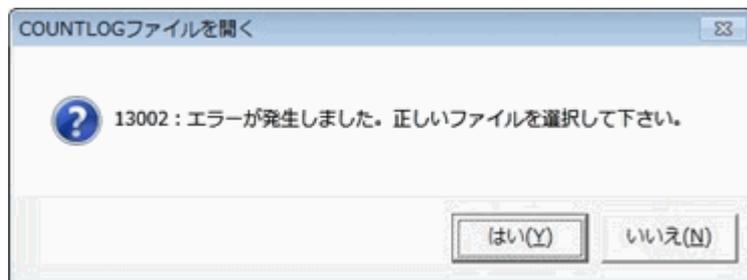
#### 注意



COBOLソースファイルオープン時にエラーが発生すると、以下のメッセージが表示されます。

「はい」を選択した場合、「COUNTLOGファイル展開画面」に戻ります。

「いいえ」を選択した場合、命令実行網羅率を計算しないで、メイン画面へ遷移します。



## 6.5.2 初期情報設定画面

蓄積機能

初期情報を設定して下さい。

COUNTLOGファイル格納フォルダ(C):

(1) D:\NetCOBOL\workspace\Sample

COUNT情報ファイル(S):

(3) D:\NetCOBOL\workspace\Sample\cnt.log

(5) (6) (7) (8)

No	項目	設定内容
(1)	COUNTLOGファイル格納フォルダ(C)	COUNTLOGファイルの出力先フォルダを指定します。
(2)	参照(D)	ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。 COUNTLOGファイルの出力先フォルダを指定します。
(3)	COUNT情報ファイル(S)	蓄積対象のCOUNT情報ファイルを指定します。 <a href="#">環境設定</a> でカレントフォルダを設定している場合は、ファイル名のみ指定が可能です。
(4)	参照(F)	ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。 蓄積対象のCOUNT情報ファイルを指定します。
(5)	戻る(B)	<a href="#">初期情報設定画面</a> では、ご利用になれません。

(6)	次へ(N)	初期情報を設定し蓄積情報設定画面へ移ります。
(7)	キャンセル	処理をキャンセルする場合、クリックします。
(8)	ヘルプ	クリックすると、ユーザーズガイドが表示されます。

## 6.5.3 蓄積情報設定画面

蓄積機能

蓄積情報を設定して下さい。

定義プログラム(L)

(1)  SAMPLE

詳細情報

(2) プログラム名: SAMPLE

新規にCOUNTLOGファイルを作成する(O)

(3) 蓄積モード

NONUMBER(X)

NUMBER(Y)

(4) 作成種別

COBOL(C)

(5) テストケース名

無し(S)

有り(T)

(6) < 戻る(B) (7) 次へ(N) > (8) キャンセル (9) ヘルプ

No	項目	設定内容
(1)	定義プログラム(L)	COUNT情報に含まれるプログラム名の一覧が表示されます。 蓄積対象のプログラム名をチェックします。
(2)	作成モード	新規にCOUNTLOGファイルを作成する場合に選択します。 COUNTLOGファイルを新規作成する場合には、デフォルトで選択されています。
(3)	蓄積モード	蓄積モードをコンパイルオプションに合わせて選択します。
(4)	作成種別	作成種別「COBOL」のみ選択可能です。
(5)	テストケース名	蓄積対象とするテストケース名を指定します。(テストケース名の指定は必須ではありません。)
(6)	戻る(B)	<a href="#">初期情報設定画面</a> に戻る場合、クリックします。
(7)	次へ(N)	蓄積情報を設定し <a href="#">蓄積情報確認画面</a> へ移ります。

(8)	キャンセル	処理をキャンセルする場合、クリックします。
(9)	ヘルプ	クリックすると、ユーザーズガイドが表示されます。

---

◀ 前

次 ▶

先頭行へ ⬆

## 6.5.4 蓄積情報確認画面

蓄積機能

以下の情報で蓄積を行います。

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
プログラム名	作成モード	蓄積モード	作成種別	テストケース名
SAMPLE	新規	NONUMBER	COBOL	無し

(6) COUNTLOGファイル格納フォルダ:  
D:\NetCOBOL\workspace\Sample

(7) < 戻る(B)      (8) 完了      (9) キャンセル      (10) ヘルプ

No	項目	設定内容
(1)	プログラム名	<a href="#">初期情報設定画面</a> で蓄積対象としたプログラム名を表示します。
(2)	作成モード	<a href="#">蓄積情報設定画面</a> で設定した作成モードを表示します。
(3)	蓄積モード	<a href="#">蓄積情報設定画面</a> で設定した蓄積モードを表示します。
(4)	作成種別	作成種別「COBOL」が表示されます。
(5)	テストケース名	<a href="#">蓄積情報設定画面</a> で設定したテストケース名を表示します。
(6)	COUNTLOGファイル格納フォルダ	<a href="#">初期情報設定画面</a> で設定したCOUNTLOGファイル格納フォルダを表示します。
(7)	戻る(B)	<a href="#">蓄積情報設定画面</a> に戻る場合、クリックします。

(8)	完了	蓄積機能(COUNTLOGファイルの作成)を開始する場合、クリックします。
(9)	キャンセル	処理をキャンセルする場合、クリックします。
(10)	ヘルプ	クリックすると、ユーザーズガイドが表示されます。

## 5.8 TF-EXCOUNTERの使い方

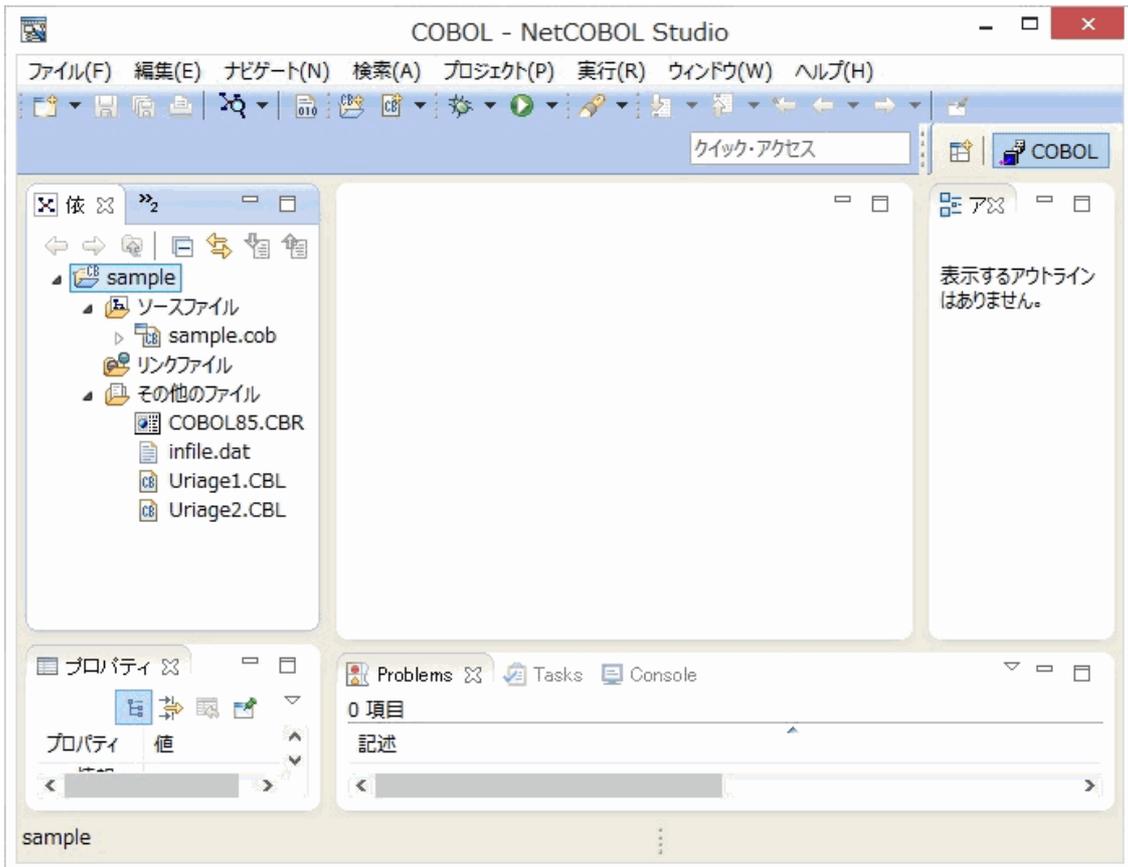
TF-EXCOUNTERの基本的な使い方を製品に添付しているサンプルプログラムを使用して説明します。

サンプルプログラムは、TF-EXCOUNTERのインストールフォルダ¥Sample配下にあります。

## 5.8.1 COUNT情報ファイル作成手順

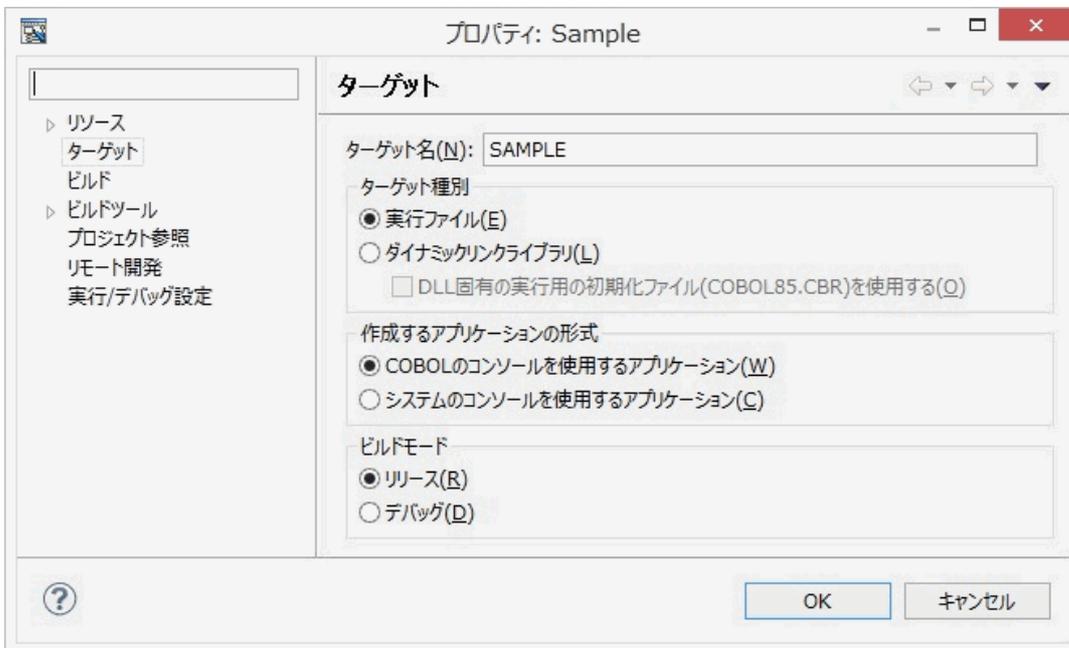
### 1. サンプルプログラムのプロジェクトを開く

NetCOBOL Studioを起動し、製品に添付しているサンプルプログラムのプロジェクトをインポートします。サンプルプログラムのプロジェクトは、TF-EXCOUNTERのインストールフォルダ¥Sampleに配置されています。サンプルプログラムの資産はワークスペースへコピーして使用してください。本手順ではワークスペース(D:¥NetCOBOL¥workspace)を使用しての手順を説明します。



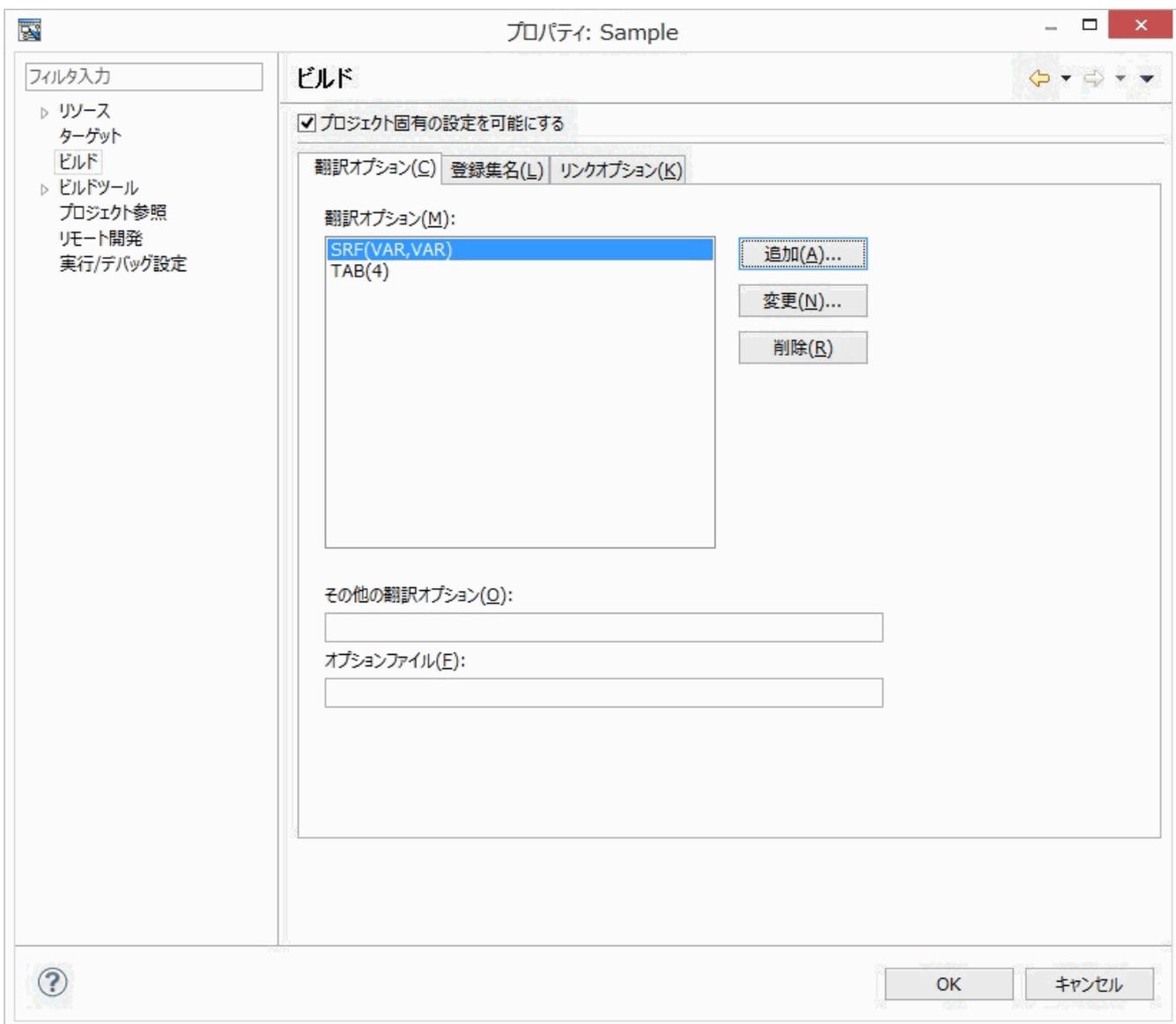
### 2. ビルドモードの設定

“プロジェクト”メニューの“プロパティ”の“ターゲット”からビルドモードを“リリース”に設定します。



### 3. 翻訳オプションとしてCOUNTオプションの付加

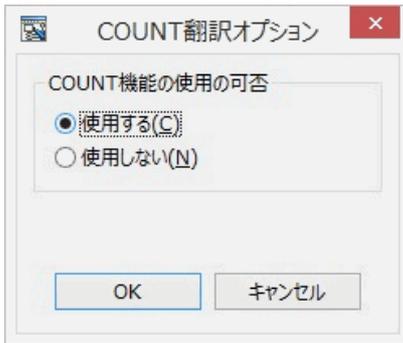
“プロジェクト”メニューの“プロパティ”の“ビルド”から“翻訳オプション”を選択します。



“追加”ボタンを押下し翻訳オプションの追加から“COUNT”を選択します。



“COUNT翻訳オプション”が表示されるので、“使用する”を選択します。



#### 4. サンプルプログラムのビルド

“プロジェクト”メニューから“プロジェクトのビルド”を選択します。

#### 5. サンプルプログラムの実行環境を設定

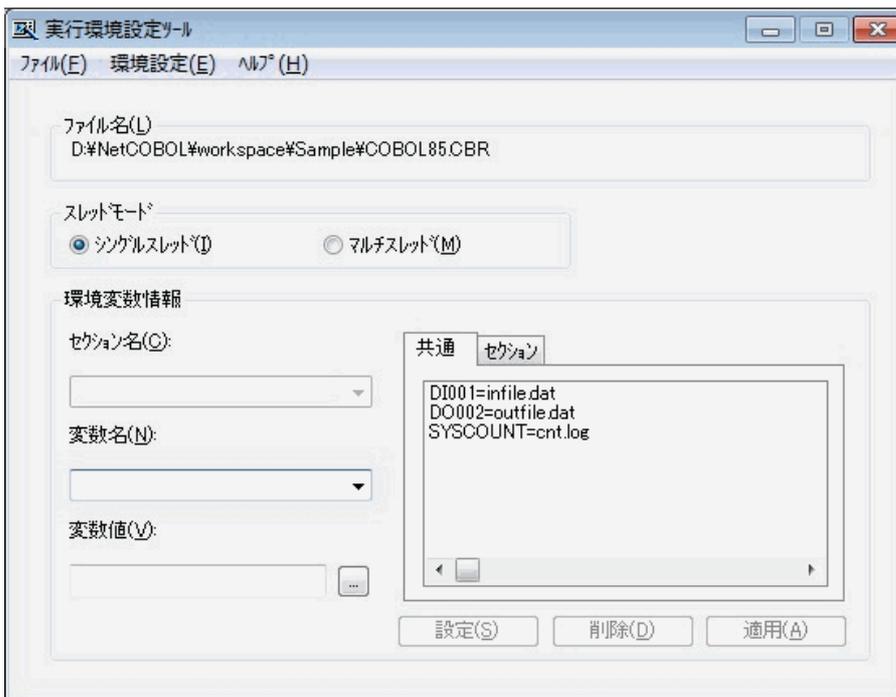
“実行環境設定ツール”を利用して実行環境を設定します。

[依存]ビューまたは[構造]ビューからサンプルプログラム実行用初期化ファイル“COBOL85.CBR”を開きます。

“共通”タブを選択し、以下の情報を設定します。

DI001 : “infile.dat” (入力ファイル)  
 D0002 : “outfile.dat” (出力ファイル)

SYSCOUNT: COUNT情報の出力ファイルとなるファイル名を指定します。(本手順では“cnt.log”を指定します。)



下記に適用ボタンを選択した後のCOBOL85.CBRの内容を記載します。

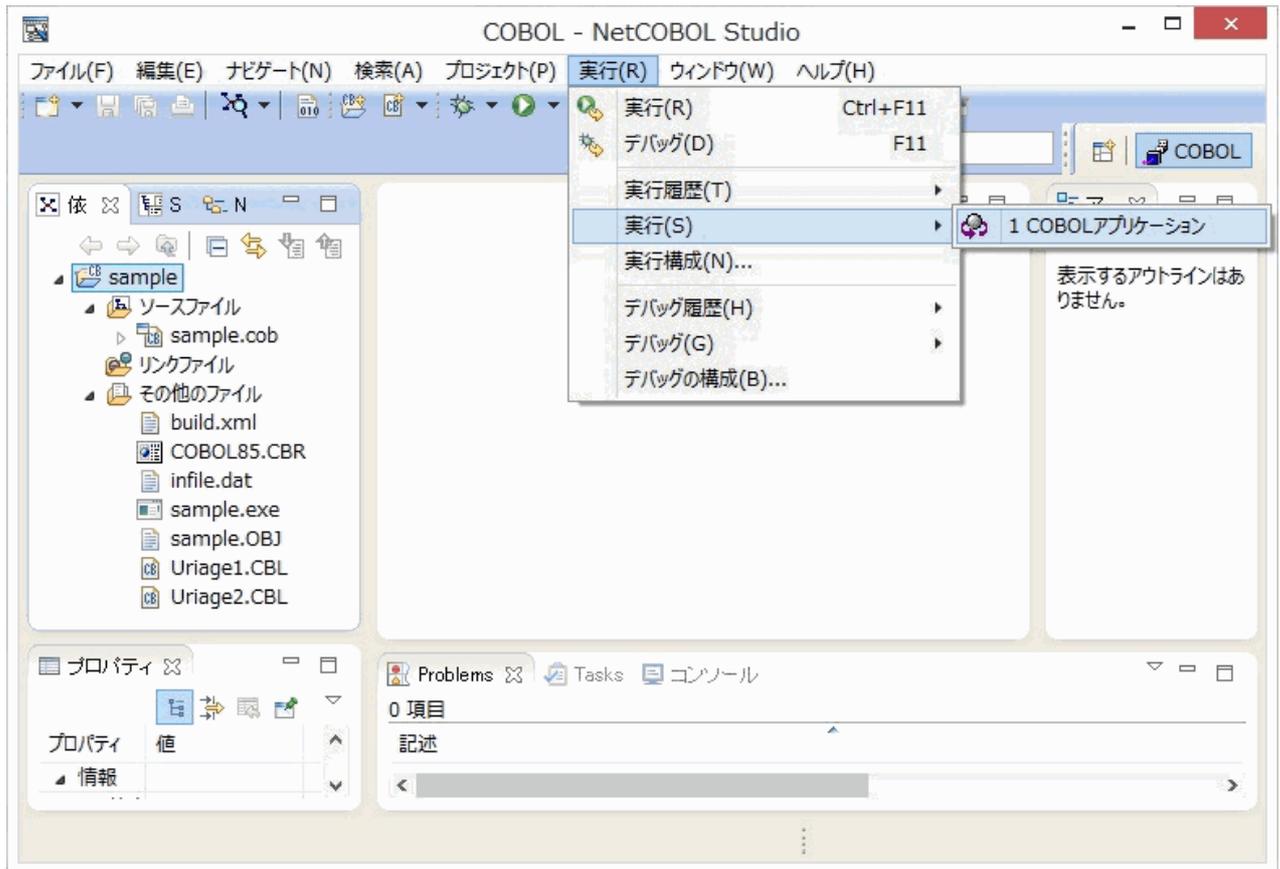
DI001=infile.dat  
 D0002=outfile.dat  
 SYSCOUNT=cnt.log

## 6. サンプルプログラムの実行

“実行”メニューの“実行”から“COBOLアプリケーション”を選択します。

サンプルプログラムを実行すると、COUNT情報ファイル“cnt.log”がサンプルプログラム格納フォルダに作成されます。

COUNT情報ファイルからTF-EXCOUNTERを使用して命令実行網羅率の測定を行います。



## 参考



実行環境設定ファイル(COBOL85.CBR)について

COBOL85.CBRが存在しない場合は、実行プログラム格納フォルダ配下にテキストエディタで作成してください。

COBOL85.CBR記述例

```
DI001=infile.dat  
D0002=outfile.dat  
SYSCOUNT=cnt.log
```



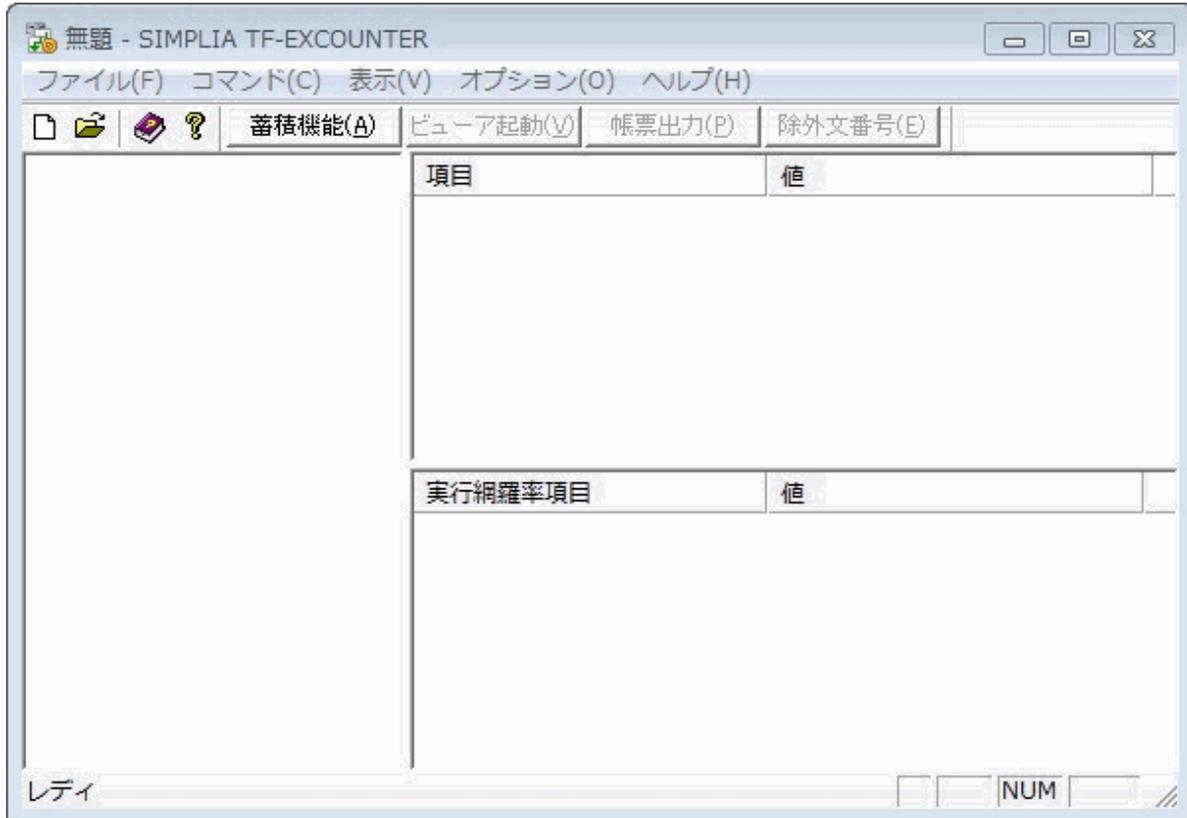
実行環境設定ツールについて

実行環境設定ツールの使用方法については、COBOLユーザーズガイドを参照ください。

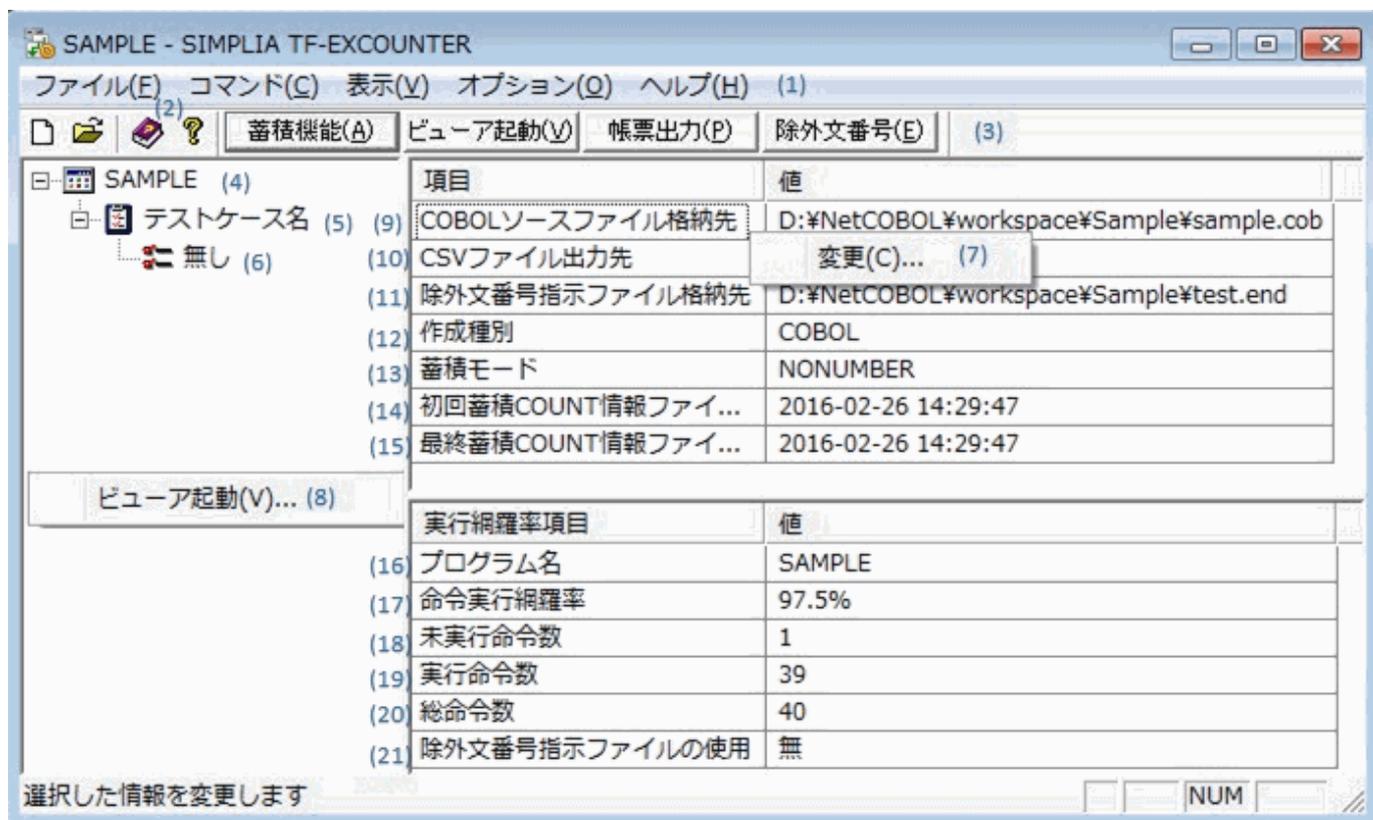


## 6.5.1 メイン画面

[起動時]



[COUNTLOGファイル展開時]



No	項目	内容
(1)	メニューバー	メニューが表示されます。
(2)	ツールバー	ツールバーが表示されます。
(3)	コマンドボタン バー	コマンドバーが表示されます。
(4)	プログラム名	COUNTLOGファイルに含まれるプログラム名が表示されます。
(5)	テストケース	下層にテストケース名が表示されます。
(6)	テストケース名	テストケース名が表示されます。
(7)	変更(C)	ポップアップメニューです。 「COBOLソースファイル格納先」、「CSVファイル出力先」、「除外文番号指示ファイル格納先」上で右クリック後に表示されます。それぞれの格納先または出力先を変更する画面が表示されます。
(8)	ビューア起動(V)	ポップアップメニューです。 COUNTLOGファイルツリー上で右クリック後に表示されます。ビューアを起動するためのビューア起動画面が表示されます。
(9)	COBOLソース ファイル格納先	COBOLソースファイルの格納先が表示されます。
(10)	CSVファイル出	直前に帳票出力機能で作成したCSVファイ

	力先	ルの出力先が表示されます。
(11)	除外文番号指示 ファイル格納先	直前に除外文番号指示ファイル作成機能で 作成された除外文番号指示ファイルの格納 先が表示されます。
(12)	作成種別	作成種別「COBOL」が表示されます。
(13)	蓄積モード	蓄積機能で指定した蓄積モード「NUMBER」 または「NONUMBER」が表示されます。
(14)	初回蓄 積COUNT情報 ファイル日時	最初に蓄積を行ったCOUNT情報の実行日 時が表示されます。
(15)	最終蓄 積COUNT情報 ファイル日時	最後に蓄積を行ったCOUNT情報の実行日 時が表示されます。
(16)	プログラム名、ま たは、テストケ ース名	COUNTLOGファイルのプログラム名、また は、選択されたテストケース名が表示されま す。
(17)	命令実行網羅率	命令実行網羅率が表示されます。
(18)	未実行命令数	未実行命令数が表示されます。
(19)	実行命令数	実行命令数が表示されます。
(20)	総命令数	総命令数が表示されます。
(21)	除外文番号指示 ファイルの使用	除外文番号指示ファイルの使用状態が表示 されます。  「無」: 除外文番号指示ファイルを使用せず、 網羅率を測定している場合に表示されま す。  「有」: 除外文番号指示ファイルを使用して、 網羅率を測定している場合に表示されま す。

## 参考

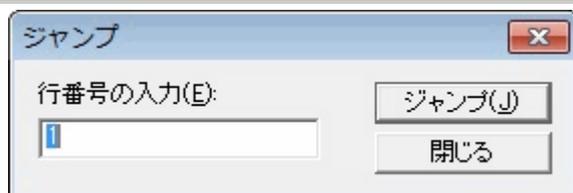


地域と言語の設定によって、初回蓄積COUNT情報ファイル日時と最終蓄積COUNT情報  
ファイル日時の表示フォーマットは以下である:

「表示形式」: 日本語 「表示言語」: 英語 YYYYY-MM-DD HH:MM:SS  
「表示言語」: 日本語 YYYYY-MM-DD HH:MM:SS  
「表示形式」: 英語 「表示言語」: 英語 MM-DD-YYYY HH:MM:SS  
「表示言語」: 日本語 MM-DD-YYYY HH:MM:SS  
「表示形式」: 日本語や英語以外  
「表示言語」: 英語 MM-DD-YYYY HH:MM:SS



## 6.9.3 ジャンプ画面



No	項目	設定内容
(1)	行番号の入力(E)	ジャンプしたいCOBOLソースファイルの行番号を入力します。
(2)	ジャンプ(J)	行番号の入力で指定された行番号へカーソルを移動します。
(3)	閉じる	本画面を閉じます。

## 7.1.2 命令実行情報累積 出力例

表7.5 [オリジナルヘッダ一部]

SIMPLIA TF- EXCOUNTER VXXLXX		命令実行情報累積			作成日 時:YYYY年MM月DD日 HH時MM分SS秒
プログラム名	初回蓄積COUNT 情報ファイル日付	初回蓄積COUNT 情報ファイル時間	最終蓄積COUNT 情報ファイル日付	最終蓄積COUNT 情報ファイル時間	COBOLソース ファイル
JYUCHU	1999-04- 23	11:07:27	1999-04- 23	11:07:27	C:¥Program ¥JYUCHU.cob

表7.6 [簡易版ヘッダ一部]

帳票種別	プログラム名	テストケース 名	COBOLソー スファイル	除外文
命令実行情 報累積	JYUCHU	-	JYUCHU.cob	-

未実行 マーク	行番 号	ソースコード	実行回数
	110	PROCEDURE DIVISION JYUCHU	
	111	PERFORM 初期処理.	1
	112	PERFORM UNTIL 終了フラグ = 定 数-ON	1
X	113	PERFORM 主処理	0
	114	END-PERFORM.	
	115	PERFORM 終了処理.	1
		:	
		:	

テストケー	総命令数	実行命令数	未実行命令	命令実行網羅率
-------	------	-------	-------	---------

ス数			数	
1	40	30	10	75.00%

## 7.1.6 テストケース一覧

表7.15 [オリジナルヘッダー部]

[製品名称]	[帳票種別]	[作成日時]			
プログラム名	初回蓄積COUNT情報ファイル日付	初回蓄積COUNT情報ファイル時間	最終蓄積COUNT情報ファイル日付	最終蓄積COUNT情報ファイル時間	COBOLソースファイル

No	編集項目	編集内容概要
1	製品名称	製品名称を編集します。
2	帳票種別	帳票種別を編集します。
3	作成日時	CSVファイルの作成日時を編集します。
4	プログラム名	指定されたCOUNTLOGファイルのプログラム名を編集します。
5	初回蓄積COUNT情報ファイル日付	最初に蓄積を行ったCOUNT情報の日付を編集します。
6	初回蓄積COUNT情報ファイル時間	最初に蓄積を行ったCOUNT情報の時間を編集します。
7	最終蓄積COUNT情報ファイル日付	最後に蓄積を行ったCOUNT情報の日付を編集します。
8	最終蓄積COUNT情報ファイル時間	最後に蓄積を行ったCOUNT情報の時間を編集します。
9	COBOLソースファイル	帳票出力で指定されたCOBOLソースファイル名を編集します。

表7.16 [簡易版ヘッダー部]

帳票種別	プログラム名	テストケース数	COBOLソースファイル	除外文

No	編集項目	編集内容概要
1	帳票種別	出力した帳票の帳票種別を編集します。
2	プログラム名	指定されたCOUNTLOGファイルのプログラム名を編集します。
3	テストケース数	COUNTLOG内のテストケース数を編集します。
4	COBOLソースファイル	帳票出力で指定されたCOBOLソースファイル名を編集します。 COBOLソースファイル名のみが出力されます。
5	除外文	帳票出力で指定された除外文番号指示ファイル名を編集します。 除外文情報を指定しない場合は、“-”を表示します。除外文番号指示ファイル名のみが出力されます。

表7.17 [ディティール部]

テストケース名	命令実行網羅率	総命令数	実行命令数	挿入行数	削除行数	初回蓄積COUNT情報ファイル日付	初回蓄積COUNT情報ファイル時間	最終蓄積COUNT情報ファイル日付	最終蓄積COUNT情報ファイル時間

No	編集項目	編集内容概要
1	テストケース名	COUNTLOGのテストケース名です。
2	命令実行網羅率	実行命令数/総命令数で算出します。
3	総命令数	COBOLソースファイルの総命令数を編集します。 ただし、PROCEDURE DIVISIONのみでかつ除外文は除きます。
4	実行命令数	実行された命令数を編集します。
5	挿入行数	挿入行数を編集します。
6	削除行数	削除行数を編集します。
7	初回蓄積COUNT情報ファイル日付	最初に蓄積を行ったCOUNT情報の日付を編集します。

8	初回蓄積COUNT情報ファイル時間	最初に蓄積を行ったCOUNT情報の時間を編集します。
9	最終蓄積COUNT情報ファイル日付	最後に蓄積を行ったCOUNT情報の日付を編集します。
10	最終蓄積COUNT情報ファイル時間	最後に蓄積を行ったCOUNT情報の時間を編集します。

## 参考



1. 除外文と総命令数、実行命令数、未実行命令数および命令実行網羅率について  
 “除外文を使用する”をチェックした場合、除外文番号指示ファイルで指示された行番号は、総命令数、実行命令数および未実行命令数の対象となりません。  
 そのため、全ての未実行命令に対して除外文番号指示ファイルで行番号が指示されている時は、命令実行網羅率は100%となります。

2. 地域と言語の設定によって、作成日時を表示フォーマットは以下である：

- |                  |             |                       |
|------------------|-------------|-----------------------|
| 「表示形式」: 日本語      | 「表示言語」: 英語  | YYYY/MM/DD HH:MM:SS   |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | YYYY年MM月DD日 HH時MM分SS秒 |
| 「表示形式」: 英語       | 「表示言語」: 英語  | MM/DD/YYYY HH:MM:SS   |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | MM/DD/YYYY HH:MM:SS   |
| 「表示形式」: 日本語や英語以外 | 「表示言語」: 英語  | MM/DD/YYYY HH:MM:SS   |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | YYYY年MM月DD日 HH時MM分SS秒 |

初回蓄積COUNT情報ファイル日付と最終蓄積COUNT情報ファイル日付の表示フォーマットは以下である：

- |                  |             |            |
|------------------|-------------|------------|
| 「表示形式」: 日本語      | 「表示言語」: 英語  | YYYY-MM-DD |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | YYYY-MM-DD |
| 「表示形式」: 英語       | 「表示言語」: 英語  | MM-DD-YYYY |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | MM-DD-YYYY |
| 「表示形式」: 日本語や英語以外 | 「表示言語」: 英語  | MM-DD-YYYY |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | YYYY-MM-DD |

## 注意



除外理由について

除外理由は、“除外文を使用する”をチェックしたときのみ出力されます。

“除外文を使用する”のチェックを外した場合は出力されませんのでご注意ください。



挿入行数、削除行数について

挿入行数と削除行数の編集は、作成種別がCOBOLで、かつ、蓄積モードがNUMBERのときのみ出力されます。

他のモードのときは出力されませんのでご注意ください。

蓄積モードがNUMBERで、初回にCOUNTLOGファイルを蓄積後に出力された帳票は挿入行数、削除行数は“0”となります。

COBOLソースの修正を行い、再度蓄積を行うと出力された帳票に挿入行数、削除行数の情報が反映されます。

&lt;&lt; 前

次 &gt;&gt;

## 6.1.5 [ヘルプ]メニュー

TF-EXCOUNTER ヘルプ(H)
バージョン情報(A)

No	項目	内容
1	TF-EXCOUNTER ヘルプ(H)	ユーザーズガイドを表示します。
2	バージョン情報(A)	バージョン情報を表示します。

&lt;&lt; 前

次 &gt;&gt;

先頭行へ▲

## 6.1.3 [表示]メニュー

<input checked="" type="checkbox"/>	ツールバー(T)
<input checked="" type="checkbox"/>	コマンドボタンバー(C)
<input checked="" type="checkbox"/>	ステータスバー(S)

No	項目	内容
1	ツールバー(T)	<a href="#">ツールバー</a> の表示／非表示を選択します。
2	コマンドボタンバー(C)	<a href="#">コマンドボタンバー</a> の表示／非表示を選択します。
3	ステータスバー(S)	ステータスバーの表示／非表示を選択します。

## 6.9.1 ビューア起動画面



No	項目	設定内容
(1)	COBOLソースファイル名(S)	対象となるプログラムが存在するCOBOLソースファイルを指定します。 <a href="#">環境設定</a> で設定したカレントフォルダの配下にファイルが存在しているときは、ファイル名だけの指定も可能です。
(2)	参照(F)	ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。 ファイル選択ダイアログからCOBOLソースファイルを指定します。
(3)	テストケース名(T)	表示させるテストケース名を指定します。“*”を選択した場合は、全テストケースの累積した実行回数が表示されます。
(4)	除外文を使用する(U)	除外文番号指示ファイルを使用する場合チェックします。
(5)	除外文番号指示ファイル名(E)	除外文番号指示ファイルを指定します。 <a href="#">環境設定</a> で設定したカレントフォルダの配下にファイルが存在しているときは、ファイル名だけの指定も可能です。
(6)	参照(X)	ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。

		ファイル選択ダイアログから除外文番号指示ファイルを指定します。
(7)	OK	ビューアメイン画面を表示する場合、クリックします。
(8)	キャンセル	処理をキャンセルする場合、クリックします。
(9)	ヘルプ	クリックすると、ユーザーズガイドが表示されます。



## 6.7.1 帳票出力画面

帳票出力

出力する帳票の情報を設定して下さい。

COUNTLOGファイル名:

(1) D:\NetCOBOL\workspace\Sample\SAMPLE.clg

帳票種別

(2)  命令実行情報累積(R)

(3)  命令実行情報個別(K)

テストケース一覧①

COBOLソースファイル名(S):

(4) D:\NetCOBOL\workspace\Sample\sample.cc 参照(F)...(5)

出力CSVファイル名(C):

(6) 参照(O)...(7)

出力オプション

(8)  簡易版ヘッダー情報を出力する(H)

(9)  除外文を使用する(U)

除外文番号指示ファイル名(E):

(10) 参照(X)...(11)

(12) OK (13) キャンセル (14) ヘルプ

No	項目	設定内容
(1)	COUNTLOGファイル名	帳票出力の対象となるCOUNTLOGファイル名を表示します。
(2)	帳票種別	出力する帳票の帳票種別を選択します。
(3)	テストケース名	命令実行情報個別の対象とするテストケース名を指定します。 (命令実行情報累積およびテストケース一覧出力では、指定できません。)
(4)	COBOLソース	対象となるプログラムが存在するCOBOLソースファイルを指定します。

	ファイル名(S)	<a href="#">環境設定</a> で設定したカレントフォルダの配下にファイルが存在しているときは、ファイル名での指定も可能です。
(5)	参照(F)	ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。 ファイル選択ダイアログからCOBOLソースファイルを指定します。
(6)	出力CSVファイル名(C)	CSVファイルの出力先および、ファイル名を指定します。 <a href="#">環境設定</a> でカレントフォルダを設定しているときは、ファイル名だけの指定も可能です。
(7)	参照(O)	ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。 ファイル選択ダイアログから出力CSVファイルを指定します。
(8)	簡易版ヘッダー情報を出力する(H)	簡易版ヘッダーを出力する場合チェックします。 チェックしない場合は、CSVファイルのオリジナルヘッダーを出力します。
(9)	除外文を使用する(U)	除外文番号指示ファイルを使用する場合チェックします。
(10)	除外文番号指示ファイル名(E)	除外文番号指示ファイルを指定します。 <a href="#">環境設定</a> で設定したカレントフォルダの配下にファイルが存在しているときは、ファイル名だけの指定も可能です。
(11)	参照(X)	ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。 ファイル選択ダイアログから除外文番号指示ファイルを指定します。
(12)	OK	CSVファイルを作成する場合、クリックします。
(13)	キャンセル	処理をキャンセルする場合、クリックします。
(14)	ヘルプ	クリックすると、ユーザーズガイドを表示します。

## 6.8.1 除外文番号画面

No	項目	設定内容
(1)	COUNTLOGファイル名	除外文番号指示ファイル作成の対象となるCOUNTLOGファイル名を表示します。
(2)	COBOLソースファイル名(S)	対象となるプログラムが存在するCOBOLソースファイルを指定します。 <a href="#">環境設定</a> で設定したカレントフォルダの配下にファイルが存在しているときは、ファイル名だけの指定も可能です。
(3)	参照(F)	ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。 ファイル選択ダイアログからCOBOLソースファイルを指定します。
(4)	除外文番号指示ファイル名(E)	除外文番号指示ファイルの出力先および、ファイル名を指定します。 <a href="#">環境設定</a> でカレントフォルダを設定しているときは、ファイル名のみの指定が可能です。
(5)	参照(X)	ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。 ファイル選択ダイアログから除外文番号指示ファイルを指定します。
(6)	OK	除外文番号指示ファイルを作成する場合、クリックします。

(7)	キャンセル	処理をキャンセルする場合、クリックします。
(8)	ヘルプ	クリックすると、ユーザーズガイドが表示されます。

[第6章 画面説明](#) > 6.4 メニュー(ビューアメイン画面)

---

◀ 前 次 ▶

## 6.4 メニュー(ビューアメイン画面)

ビューアメイン画面の各メニューについて説明します。

---

◀ 前 次 ▶ [先頭行へ↑](#)

## 5.7.2 帳票出力コマンド

インストール配下のfs1tctab.exeをコマンドプロンプト上で実行することで、複数COUNTLOGファイルの帳票一括出力処理を行うことができます。

以下にコマンド入力形式と機能について説明します。

### 5.7.2.1 実行形式

コマンドの記述形式を示します。記述形式は以下の規約で記述しています。

- 通常の文字で記述されている語は、そのとおりに入力することを示しています。
- 形式中の日本語の語は、置き換えて入力することを示しています。
- { }で囲まれている部分は、その括弧中の一つを明に指定する必要があることを示しています。
- [ ]で囲まれている部分は、省略可能であることを示しています。また、省略された場合は、括弧中の下線のある語が選択されることを示しています。
- 前述の括弧中に“ $\alpha$  |  $\beta$ ”と語句がわかれている部分は、 $\alpha$ および $\beta$ が選択対象であることを示しています。
- 各オプションについて大文字・小文字は区別しません。

単一出力：

```
fs1tctab /IF COUNTLOGファイル名 {/MR | /MK [テストケース名] | /T1} [/SF
COBOLソースファイル名] [/IS | /IU] [/OF 出力CSVファイル名] [/OS | /OU]
[/NOLOG] [/EX [除外文番号指示ファイル名]] [/SHD]
```

一括出力：

```
fs1tctab /ID COUNTLOGフォルダ名 {/MR | /MK [テストケース名] | /T1} [/SD
COBOLソースフォルダ名] [/IS | /IU] [/OD 出力CSVフォルダ名] [/OS | /OU]
[/NOLOG] [/EX [除外文番号指示ファイル格納フォルダ名]] [/SHD]
```

### 5.7.2.2 オプション

指定できるオプションは以下の通りです。

利用区分	オプション	種別	設定内容
単一出力	/IF	必須	COUNTLOGファイル名を指定します。 /IFの後ろに半角スペースを空けてフルパスを指定してください。 注) COUNTLOGファイル名を含めたフルパスを記述してください。
			出力帳票を指定します。指定オプションの内容は以下の通りです。

<p>/MR /MK /TI</p>	<p>必須</p>	<div data-bbox="496 91 1166 147" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">/MR : 命令実行情報累積出力</div> <div data-bbox="496 174 1166 230" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">/MK : 命令実行情報個別出力</div> <div data-bbox="496 257 1166 313" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">/TI : テストケース一覧出力</div> <p>出力される各帳票のフォーマットは「<a href="#">7.1 帳票出力(CSVファイル)説明</a>」を参照してください。 注) ・/MK(命令実行情報個別)指定時は、半角スペースを空けてテストケース名を指定します。 ・テストケース名が指定されていない場合は、COUNTLOGファイルに含まれる全テストケースに関する情報を出力します。</p>
<p>/SF</p>	<p>任意</p>	<p>COBOLソースファイル名を指定します。 /SFの後ろに半角スペースを空けてフルパスを指定してください。 注) ・COBOLソースファイル名を含めたフルパスを記述してください。 ・オプションが未指定の場合はCOUNTLOGファイルに設定されているCOBOLソースファイルが使用されます。 ・オプションが未指定且つCOUNTLOGファイルに設定されていない場合はエラーになります。</p>
<p>/IS /IU</p>	<p>任意</p>	<p>COBOLソースファイルの文字コードを指定します。 指定オプションの内容は以下の通りです。</p> <div data-bbox="496 1373 1166 1462" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">/IS : 入力COBOLソースがSJISの場合に指定します。 (デフォルト)</div> <div data-bbox="496 1489 1166 1579" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">/IU : 入力COBOLソースがUTF-8の場合に指定します。</div> <p>注) ・指定されていない場合はSJIS指定になります。</p>
		<p>出力CSVファイル名を指定します。 /OFの後ろに半角スペースを空けてフルパスを指定してください。 注) ・CSVファイル名を含めたフルパスを記述してください。 ・オプションが未指定の場合はCOUNTLOGファイルに設定されているパスへ出力します。 ・オプションが未指定且つCOUNTLOGファイルに</p>

		<p>設定されていない場合は“COUNTLOGファイル指定(/IF)”で指定されたパスに出力されます。</p> <p>・CSVファイルは下記の命名規約で出力されます。オプション指定時の命名規約は以下の通りです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">       命令実行情報累積： [指定したファイル名] .CSV     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">       命令実行情報個別： [指定したファイル名] _ [テストケース名] .CSV        ※/MKのみを指定時はテストケース数分ファイルが出力されます。     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">       テストケース一覧： [指定したファイル名] .CSV     </div> <p>オプション未指定時の命名規約は以下の通りです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">       命令実行情報累積： MR_COUNTLOGファイル名_出力日時.CSV     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">       命令実行情報個別： MK_COUNTLOGファイル名_テストケース名_出力日時.CSV        ※/MKのみを指定時はテストケース数分ファイルが出力されます。     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">       テストケース一覧： TI_COUNTLOGファイル名_出力日時.CSV     </div> <p>※地域と言語の設定によって、出力日時の表示フォーマットは以下である：</p> <p>「表示形式」:日本語 「表示言語」:英語        YYMMDDHHMMSSFFF</p> <p>「表示言語」:日本語        YYMMDDHHMMSSFFF</p> <p>「表示形式」:英語 「表示言語」:英語        MMDDYYHHMMSSFFF</p> <p>「表示言語」:日本語        MMDDYYHHMMSSFFF</p> <p>「表示形式」:日本語や英語以外        「表示言語」:英語        MMDDYYHHMMSSFFF</p> <p>「表示言語」:日本語        YYMMDDHHMMSSFFF</p>
<p>/OS /OU</p>	<p>任意</p>	<p>CSVファイルの文字コードを指定します。指定オプションの内容は以下の通りです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">       /OS：出力CSVファイルがSJISの場合に指定します。(デフォルト)     </div>

		<p>/OU : 出力CSVファイルがUTF-8の場合に指定します。</p> <p>注) ・指定されていない場合はSJIS指定になります。</p>
/NOLOG	任意	<p>バッチ実行ログを出力しない場合に指定します。</p> <p>注) ・指定されていない場合はバッチ実行ログを出力します。</p>
/EX	任意	<p>除外文番号指示ファイルを指定します。</p> <p>/EXの後ろに半角スペースを空けてファイル名をフルパスで指定してください。</p> <p>注) ・オプションが指定且つ除外文番号指示ファイル名が未指定の場合はCOUNTLOGファイルの除外文番号指示ファイルが使用されます。 ・オプションが未指定の場合、除外文番号指示ファイルを適用しません。</p>
/SHD	任意	<p>CSVファイル出力時に簡易版ヘッダー情報を出力する場合に指定します。</p> <p>注) ・指定されていない場合、CSVファイルのオリジナルヘッダー情報を帳票に出力します。</p>
一括出力		
/ID	必須	<p>COUNTLOGファイル格納フォルダ名を指定します。</p> <p>/IDの後ろに半角スペースを空けてフルパスを指定してください。</p> <p>注) COUNTLOGファイル格納フォルダ名を含めたフルパスを記述してください。</p>
/MR /MK /TI	必須	<p>出力帳票を指定します。指定オプションの内容は以下の通りです。</p> <p>/MR : 命令実行情報累積出力</p> <p>/MK : 命令実行情報個別出力</p> <p>/TI : テストケース一覧出力</p> <p>注) ・/MK(命令実行情報個別)指定時は、半角スペースを空けてテストケース名を指定します。 ・テストケース名が指定されていない場合は、COUNTLOGファイルに含まれる全テストケースに関する情報を出力します。</p>
		<p>COBOLソース格納フォルダ名を指定します。</p>

/SD	任意	<p>/SDの後ろに半角スペースを空けてフルパスを指定してください。</p> <p>注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・COBOLソースが格納されたフォルダ(ディレクトリ)のフルパスを記述してください。</li> <li>・オプションが未指定の場合はCOUNTLOGファイルに設定されているCOBOLソースファイルが使用されます。</li> <li>・オプションが未指定且つCOUNTLOGファイルに設定されていない場合はエラーになります。</li> </ul>
/IS /IU	任意	<p>COBOLソースファイルの文字コードを指定します。指定オプションの内容は以下の通りです。</p> <div data-bbox="491 645 1168 734" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>/IS : 入力COBOLソースがSJISの場合に指定します。(デフォルト)</p> </div> <div data-bbox="491 757 1168 846" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>/IU : 入力COBOLソースがUTF-8の場合に指定します。</p> </div> <p>注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定されていない場合はSJIS指定になります。</li> </ul>
/OD	任意	<p>出力CSVファイル格納フォルダ名を指定します。 /ODの後ろに半角スペースを空けてフルパスを指定してください。</p> <p>注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CSVを出力するフォルダ(ディレクトリ)のフルパスを記述してください。</li> <li>・COUNTLOGファイルに設定されていない場合は“COUNTLOGファイル格納フォルダ(/ID)”で指定されたパスに出力されます。</li> <li>・CSVファイルは下記の命名規約で出力されます。</li> </ul> <div data-bbox="491 1458 1168 1547" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>命令実行情報累積 : MR_COUNTLOGファイル名_出力日時.csv</p> </div> <div data-bbox="491 1570 1168 1715" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>命令実行情報個別 : MK_COUNTLOGファイル名_テストケース名_出力日時.csv ※/MKのみを指定時はテストケース数分ファイルが出力されます。</p> </div> <div data-bbox="491 1738 1168 1827" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>テストケース一覧 : TI_COUNTLOGファイル名_出力日時.csv</p> </div> <p>※地域と言語の設定によって、出力日時の表示フォーマットは以下である：</p> <p>「表示形式」: 日本語 「表示言語」: 英語      YYMMDDHHMMSSFFF</p> <p>「表示形式」: 英語 「表示言語」: 日本語      YYMMDDHHMMSSFFF</p>

		<p>「表示形式」: 英語 「表示言語」: 英語 MMDDYYHHMMSSFFF</p> <p>「表示言語」: 日本語 MMDDYYHHMMSSFFF</p> <p>「表示形式」: 日本語や英語以外 「表示言語」: 英語 MMDDYYHHMMSSFFF</p> <p>「表示言語」: 日本語 YYMMDDHHMMSSFFF</p>
/OS /OU	任意	<p>CSVファイルの文字コードを指定します。指定オプションの内容は以下の通りです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">/OS : 出力CSVファイルがSJISの場合に指定します。(デフォルト)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">/OU : 出力CSVファイルがUTF-8の場合に指定します。</div> <p>注) ・指定されていない場合はSJIS指定になります。</p>
/NOLOG	任意	<p>バッチ実行ログを出力しない場合に指定します。</p> <p>注) ・指定されていない場合はバッチ実行ログを出力します。</p>
/EX	任意	<p>除外文番号指示ファイル格納フォルダ名を指定します。 /EXの後ろに半角スペースを空けて除外文番号指示ファイル格納フォルダ名をフルパスで指定してください。</p> <p>注) ・オプションが指定且つ除外文番号指示ファイル格納フォルダが未指定の場合はCOUNTLOGファイルの除外文番号指示ファイルが使用されます。 ・オプションが未指定の場合、除外文番号指示ファイルを適用しません。</p>
/SHD	任意	<p>CSVファイル出力時に簡易版ヘッダ情報を出力する場合に指定します。</p> <p>注) ・指定されていない場合、CSVファイルのオリジナルヘッダ情報を帳票に出力します。</p>

### 5.7.2.3 使用例

以下に帳票出力コマンドの使用例を記載します。

単一出力の場合：  
C:¥> fs1tctab /IF C:¥DATA¥Sample.clg /MR /SF C:¥SRC¥Sample.cob /IS /OF C:¥DATA¥Sample.csv /OS

一括出力の場合：  
C:¥> fs1tctab /ID C:¥DATA /MR /SD C:¥SRC /IS /OD C:¥DATA /OS

#### 5.7.2.4 バッチ実行ログ

/NOLOGオプションが指定されていない場合、帳票出力コマンドの実行結果がログファイルに出力されます。

出力場所：ユーザ環境変数(TEMP/TMP)に出力されます。ユーザ環境変数が設定されていない場合はシステム環境変数(TEMP/TMP)に出力されます。

ファイル名：fs1tctab.log

出力形式：追加書き、コマンドの実行単位で出力されます。

出力例：  
2011/10/25 19:40:40 帳票出力を開始します。  
2011/10/25 19:40:40 COUNTLOGファイル： [C:¥cobol¥SAMPLE.clg]  
2011/10/25 19:40:40 出力帳票オプション： [/MR]  
2011/10/25 19:40:40 COBOLソースファイル： [C:¥cobol¥sample.cob]  
2011/10/25 19:40:40 出力CSVファイル： [C:¥cobol¥MR\_SAMPLE\_111025194040223.csv]  
2011/10/25 19:40:40 帳票出力が終了しました。

※地域と言語の設定によって、バッチ実行ログの実行日時の表示フォーマットは以下である：

「表示形式」：日本語	「表示言語」：英語	YYYY/MM/DD HH:MM:SS
	「表示言語」：日本語	YYYY/MM/DD HH:MM:SS
「表示形式」：英語	「表示言語」：英語	MM/DD/YYYY HH:MM:SS
	「表示言語」：日本語	MM/DD/YYYY HH:MM:SS
「表示形式」：日本語や英語以外		
	「表示言語」：英語	MM/DD/YYYY HH:MM:SS
	「表示言語」：日本語	YYYY/MM/DD HH:MM:SS

## 6.5 蓄積機能

蓄積機能の各画面について説明します。

## 6.5.5 変更画面



No	項目	内容
(1)	変更される項目(F)	変更対象がCOBOLソースファイル格納先、CSVファイル出力先、除外文番号指示ファイル格納先のいずれかにより、切り替わります。
(2)	参照(O)	ボタンを押下するとファイル選択ダイアログを表示します。ファイル選択ダイアログから変更するファイルを指定できます。
(3)	OK	指定したファイルをCOUNTLOGに反映する場合、押下します。
(4)	キャンセル	処理をキャンセルする場合、押下します。

## 6.9 ビューア

ビューア機能の各画面について説明します。

◀ 前 次 ▶

## 6.9.2 ビューアメイン画面

行番号	ソースコード	実行回数	その他
98	READ I - 設定前売上ファイル NEXT	6	
99	AT END		
100	MOVE 定数-終了 TO 判定-終了フラグ	1	
101	CONTINUE	1	
102	END-READ.		
103	IF 判定-終了フラグ = 定数-終了	6	
104	THEN		
105	CONTINUE	1	
106	ELSE		
107	COMPUTE 計数-入力件数 = 計数-入力件数 + 1	5	
108	IF (売上01-営業店コード = SPACE)	5	
109	THEN		
110	CONTINUE	0	
111	ELSE		
112	MOVE 定数-選択 TO 判定-選択フラグ	5	
113	END-IF		
114	END-IF.		
115	C110-出口.		

レディ NUM

No	項目	設定内容
(1)	行番号	COBOLソースファイルの行番号を表示しています。 実行行や未実行行など各ステータスによって表示色が異なります。 実行行は左部のアイコンが緑色で表示されます。未実行行は灰色で表示されます。
(2)	ソースコード	COBOLソースファイルの実ソースコードを表示しています。 実行行や未実行行など各ステータスによって表示色が異なります。 実行行: <span style="color: blue;">■</span> 未実行行: <span style="color: red;">■</span> 除外文: <span style="background-color: gray; color: gray;">■</span>
(3)	実行回数	命令に対する、実行回数を表示しています。
(4)	その他	除外文番号指示ファイルが指定されている場合は、除外理由が表示されます。

◀ 前 次 ▶ 先頭行へ

## 7.1.3 命令実行情報累積(除外文番号指示ファイル使用時) 出力例

表7.7 [オリジナルヘッダー部]

SIMPLIA TF-EXCOUNTER VXXLXX	命令実行情報累積	作成日 時:YYYY年MM月DD日 HH時MM分SS秒
-----------------------------	----------	-----------------------------------

プログラム名	初回蓄積COUNT 情報ファイル日付	初回蓄積COUNT 情報ファイル時間	最終蓄積COUNT 情報ファイル日付	最終蓄積COUNT 情報ファイル時間	COBOLソースファイル
JYUCHU	1999-04-23	11:07:27	1999-04-23	11:07:27	C:¥Program¥JYUCHU.cob

表7.8 [簡易版ヘッダー部]

帳票種別	プログラム名	テストケース名	COBOLソースファイル	除外文
命令実行情報累積	JYUCHU	-	JYUCHU.cob	JYUCHU.end

未実行マーク	行番号	ソースコード	除外理由	実行回数
	110	PROCEDURE DIVISION JYUCHU		
	111	PERFORM 初期処理.		1
	112	PERFORM UNTIL 終了フラグ = 定数 - ON		1
	113	PERFORM 主処理	# エラー系のテストケースのため	0
	114	END-PERFORM.		
	115	PERFORM 終了処理.		1
		:		
		:		

テストケース数	総命令数	実行命令数	未実行命令数	命令実行網羅率
1	30	30	10	100.00%

## 7.1.5 命令実行情報個別 出力例

※除外文番号指示ファイル使用時は命令実行情報累積と同様、ディテール部に除外理由が出力されます。

表7.13 [オリジナルヘッダー部]

SIMPLIA TF- EXCOUNTER VXXLXX	命令実行情報個別	作成日 時:YYYY年MM月DD日 HH時MM分SS秒
---------------------------------	----------	-----------------------------------

プログラム名	テストケース名	初回蓄積COUNT情報 ファイル日付	初回蓄積COUNT情報 ファイル時間	最終蓄積COUNT情報 ファイル日付	最終蓄積COUNT情報 ファイル時間	COBOLソースファイル
JYUCHU	JYUCHU_CASE1	1999-04-23	11:07:27	1999-04-23	11:07:27	C:¥Program ¥JYUCHU.cob

表7.14 [簡易版ヘッダー部]

帳票種別	プログラム名	テストケース名	COBOLソースファイル	除外文
命令実行情報個別	JYUCHU	JYUCHU_CASE1	JYUCHU.cob	-

未実行マーク	行番号	ソースコード	実行回数
	110	PROCEDURE DIVISION JYUCHU	
	111	PERFORM 初期処理.	1
	112	PERFORM UNTIL 終了フラグ = 定数 - ON	1
X	113	PERFORM 主処理	0
	114	END-PERFORM.	
	115	PERFORM 終了処理.	1
		:	
		:	

テストケース数	総命令数	実行命令数	未実行命令数	命令実行網羅率
1	40	30	10	75.00%

---

◀◀ 前

次 ▶▶

先頭行へ ▲▼

Copyright 1999-2016 FUJITSU LIMITED

[◀ 前](#) [次 ▶](#)

## 6.1.4 [オプション]メニュー

[環境設定\(S\)...](#)

No	項目	内容
1	環境設定(S)	<a href="#">環境設定画面</a> を表示します。

[◀ 前](#) [次 ▶](#) [先頭行へ↑](#)



## 6.7 帳票出力

帳票出力機能の画面について説明します。





## 6.8 除外文番号指示ファイル作成

除外文番号指示ファイル作成機能の画面について説明します。



&lt;&lt; 前

次 &gt;&gt;

## 6.4.1 [ファイル]メニュー

ファイルを閉じる(C)

No	項目	内容
1	ファイルを閉じる(C)	現在開いているビューア画面を終了します。

&lt;&lt; 前

次 &gt;&gt;

先頭行へ↑



## 6.4.5 ツールバー



No	項目	内容
1	TF-EXCOUNTER ヘルプ	ユーザーズガイドを表示します。
2	バージョン情報	バージョン情報を表示します。





## 6.6 COUNTLOGファイル展開

COUNTLOGファイル展開画面について説明します。

---



## 7.1.4 命令実行情報個別

表7.9 [オリジナルヘッダ一部]

[製品 名称]	[帳票 種別]	[作成日 時]				
プログラ ム名	テスト ケース 名	初回蓄 積COUNT 情報ファ イル日付	初回蓄 積COUNT 情報ファ イル時間	最終蓄 積COUNT 情報ファ イル日付	最終蓄 積COUNT 情報ファ イル時間	COBOL ソース ファイル

No	編集項目	編集内容概要
1	製品名称	製品名称を編集します。
2	帳票種別	帳票種別を編集します。
3	作成日時	CSVファイルの作成日時を編集します。
4	プログラム名	指定されたCOUNTLOGファイルのプログラム名を編集します。
5	テストケース名	帳票出力で指定されたテストケース名を編集します。
6	初回蓄積COUNT情報ファイル日付	最初に蓄積を行ったCOUNT情報の日付を編集します。
7	初回蓄積COUNT情報ファイル時間	最初に蓄積を行ったCOUNT情報の時間を編集します。
8	最終蓄積COUNT情報ファイル日付	最後に蓄積を行ったCOUNT情報の日付を編集します。
9	最終蓄積COUNT情報ファイル時間	最後に蓄積を行ったCOUNT情報の時間を編集します。
10	COBOLソースファイル	帳票出力で指定されたCOBOLソースファイル名を編集します。

表7.10 [簡易版ヘッダ一部]

--	--	--	--	--

帳票種別	プログラム名	テストケース名	COBOLソースファイル	除外文
------	--------	---------	--------------	-----

No	編集項目	編集内容概要
1	帳票種別	出力した帳票の帳票種別を編集します。
2	プログラム名	指定されたCOUNTLOGファイルのプログラム名を編集します。
3	テストケース名	帳票出力で指定されたテストケース名を編集します。
4	COBOLソースファイル	帳票出力で指定されたCOBOLソースファイル名を編集します。 COBOLソースファイル名のみが出力されます。
5	除外文	帳票出力で指定された除外文番号指示ファイル名を編集します。 除外文情報を指定しない場合は、“-”を表示します。除外文番号指示ファイル名のみが出力されます。

表7.11 [ディテール部]

未実行マーク	行番号	ソースコード	除外理由	実行回数
--------	-----	--------	------	------

No	編集項目	編集内容概要
1	未実行マーク	累積した実行回数を元に以下の場合、未実行マークを編集します。 ・未実行行の場合…X 注)未実行行とは、COUNT情報を蓄積した結果実行回数が0の行のことです。
2	行番号	COBOLソースファイルの行番号を編集します。 ただし、PROCEDURE DIVISIONのみです。
3	ソースコード	COBOLソースファイルのソースコードを編集します。 ただし、PROCEDURE DIVISIONのみです。
4	除外理由	除外文番号指示ファイルが指定されている且つ、除外対象の場合、除外理由を“#”記号を先頭に付加し編集します
5	実行回数	累積した実行回数を編集します。

表7.12 [フッター部]

テストケー	総命令	実行命	未実行命	命令実行	挿入行	削除行
-------	-----	-----	------	------	-----	-----

ス数	数	令数	令数	網羅率	数	数
----	---	----	----	-----	---	---

No	編集項目	編集内容概要
1	テストケース数	COUNTLOG内のテストケースの数を編集します。
2	総命令数	COBOLソースファイルの総命令数を編集します。 ただし、PROCEDURE DIVISIONのみでかつ除外文は除きます。
3	実行命令数	実行された命令数を編集します。
4	未実行命令数	未実行命令数を編集します。
5	命令実行網羅率	実行命令数/総命令数で算出します。
6	挿入行数	累積したテストケースの挿入行数を編集します。
7	削除行数	累積したテストケースの削除行数を編集します。

## 参考



1. 除外文と総命令数、実行命令数、未実行命令数および命令実行網羅率について

“除外文を使用する”をチェックした場合、除外文番号指示ファイルで指示された行番号は、総命令数、実行命令数および未実行命令数の対象となりません。

そのため、全ての未実行命令に対して除外文番号指示ファイルで行番号が指示されている時は、命令実行網羅率は100%となります。

2. 地域と言語の設定によって、作成日時を表示フォーマットは以下である：

- |                  |             |                       |
|------------------|-------------|-----------------------|
| 「表示形式」: 日本語      | 「表示言語」: 英語  | YYYY/MM/DD HH:MM:SS   |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | YYYY年MM月DD日 HH時MM分SS秒 |
| 「表示形式」: 英語       | 「表示言語」: 英語  | MM/DD/YYYY HH:MM:SS   |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | MM/DD/YYYY HH:MM:SS   |
| 「表示形式」: 日本語や英語以外 | 「表示言語」: 英語  | MM/DD/YYYY HH:MM:SS   |
|                  | 「表示言語」: 日本語 | YYYY年MM月DD日 HH時MM分SS秒 |

初回蓄積COUNT情報ファイル日付と最終蓄積COUNT情報ファイル日付の表示フォーマットは以下である：

- |             |             |            |
|-------------|-------------|------------|
| 「表示形式」: 日本語 | 「表示言語」: 英語  | YYYY-MM-DD |
|             | 「表示言語」: 日本語 | YYYY-MM-DD |
| 「表示形式」: 英語  | 「表示言語」: 英語  | MM-DD-YYYY |
|             | 「表示言語」: 日本語 | MM-DD-YYYY |

「表示形式」: 日本語や英語以外

「表示言語」: 英語 MM-DD-YYYY

「表示言語」: 日本語 YYYY-MM-DD

---

## 注意

---



### 除外理由について

除外理由は、“除外文を使用する”をチェックしたときのみ出力されます。

“除外文を使用する”のチェックを外した場合は出力されませんのでご注意ください。



### 挿入行数、削除行数について

挿入行数と削除行数の編集は、作成種別がCOBOLで、かつ、蓄積モードがNUMBERのときのみ出力されます。

他のモードのときは出力されませんのでご注意ください。

蓄積モードがNUMBERで、初回にCOUNTLOGファイルを蓄積後に出力された帳票は挿入行数、削除行数は“0”となります。

COBOLソースの修正を行い、再度蓄積を行うと出力された帳票に挿入行数、削除行数の情報が反映されます。

---

## 6.6.1 COUNTLOGファイル展開画面



No	項目	設定内容
(1)	COUNTLOGファイル名	利用しているCOUNTLOGファイル名を表示します。
(2)	COBOLソースファイル名(S)	対象となるプログラムが存在するCOBOLソースファイルを指定します。 <a href="#">環境設定</a> で設定したカレントフォルダの配下にファイルが存在しているときは、ファイル名だけの指定も可能です。
(3)	参照(F)	ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。 ファイル選択ダイアログからCOBOLソースファイルを指定します。
(4)	除外文を使用する(U)	除外文番号指示ファイルを使用する場合チェックします。
(5)	除外文番号指示ファイル名(E)	除外文番号指示ファイルを指定します。 <a href="#">環境設定</a> で設定したカレントフォルダの配下にファイルが存在している場合は、ファイル名だけの指定も可能です。
(6)	参照(X)	ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。

		ファイル選択ダイアログから除外文番号指示ファイルを指定できます。
(7)	OK	<a href="#">メイン画面</a> で命令実行網羅率情報を表示する場合、クリックします。
(8)	キャンセル	処理をキャンセルする場合、クリックします。
(9)	ヘルプ	クリックすると、ユーザーズガイドが表示されます。

◀ 前

次 ▶

先頭行へ ⏪

[◀ 前](#) [次 ▶](#)

## 6.4.2 [編集]メニュー

[ジャンプ\(J\)...](#)

No	項目	内容
1	ジャンプ(J)	ジャンプ画面を表示します。指定された行番号の位置にカーソルを移動します。

[◀ 前](#) [次 ▶](#) [先頭行へ↑](#)

&lt;&lt; 前

次 &gt;&gt;

## 6.4.4 [ヘルプ]メニュー

TF-EXCOUNTER ヘルプ(H)

バージョン情報(A)

No	項目	内容
1	TF-EXCOUNTER ヘルプ(H)	ユーザーズガイドを表示します。
2	バージョン情報(A)	バージョン情報を表示します。

&lt;&lt; 前

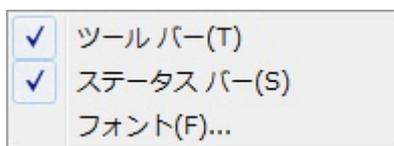
次 &gt;&gt;

先頭行へ▲

&lt;&lt; 前

次 &gt;&gt;

## 6.4.3 [表示]メニュー



No	項目	内容
1	ツールバー(T)	ツールバーの表示／非表示を選択します。
2	ステータスバー(S)	ステータスバーの表示／非表示を選択します。
3	フォント(F)	画面内で表示する文字フォントを設定します。

&lt;&lt; 前

次 &gt;&gt;

先頭行へ▲